

に語りつ歌ひつしてゐる。

電氣館は生きてゐる。幾度見ても見飽きない。

電氣館の出口に橋香堂の賣店、お伽館の外側にフタバ商會の農具實演場のあることは前に記した。

電氣館出品目録

中國合同電氣株式會社倉敷營業所出品

- 一、音波繼電器 神祠ニ應用 一式
- 一、オートラム装置 自動警報器 一式
- 一、自働時報時計 一個
- 一、電球 一キロ以下 五二個
- 一、自動車用電球 三個
- 一、エルモ活動寫真機映寫機 一個
- 一、三菱製四封度アイロン 一個
- 一、三菱製六封度アイロン 一個
- 一、百ワット電氣溫潤器 一個
- 一、敷島製五百ワット電氣茶瓶 一個
- 一、三菱製五百ワット七輪 一個
- 一、鍋 一個
- 一、二十五ワットヘヤーアイロン 一個
- 一、投込湯沸器 一個
- 一、五百ワット電氣釜 一個
- 一、光線繼電器 獅子ニ應用 一式
- 一、擴聲器 一揃
- 一、モーターサイレン 一個
- 一、眞空管NX二八〇以下 二七個
- 一、電氣冷蔵庫 一個
- 一、松下電機製四封度アイロン 一個
- 一、日本電熱製六封度アイロン 一個
- 一、川北製一・五キロスキ焼七輪 一個
- 一、日本電熱製五百ワット電氣茶瓶 一個
- 一、菓子燒器 一個
- 一、三菱製一キロスキ焼七輪 一個
- 一、二百四十ワット鋸燒器 一個
- 一、七十ワットシガラライター 一個
- 一、眞空掃除器 一個
- 一、一キロ電氣釜 一個

- 一、一キロ半萬能七輪 一個
- 一、パン燒器 一個
- 一、電氣吸入器 一個
- 一、三百ワットバイタライトランプ 一個
- 一、電氣時計 五個
- 一、敷島文化カマド 一個
- 一、自動湯沸器 二個
- 一、ギバ式鑑識太陽燈(實驗裝置) 一揃
- 一、磁氣基盤 一個
- 一、日立製 1/4馬力三相モーター 一個
- 一、1/4馬力單相蓄電器電動機 一個
- 一、三菱三相電動機斷面 一個
- 一、三菱 1/4吋モータードリル 一個
- 一、電氣行燈 二個
- 一、俯仰型セード 一〇個
- 一、田邊製コンドル三球 二個
- 一、山中製テレビアン三球 一個
- 一、照明効果ノ變化(實驗裝置) 七種
- 一、一キロ半文化飯炊器 一個
- 一、六十ワットミシンモートル 一個
- 一、火災報知器用恒溫器 一個
- 一、五百ワットバイタライトランプ 一個
- 一、ヘルモスモーター 一個
- 一、電氣洗濯器 一個
- 一、龜山製湯タンポ型コタツ 一個
- 一、敷島電熱釜(大) 一個
- 一、日立製 1/4馬力單相モーター 一個
- 一、芝浦製 1/4馬力單相モーター 一個
- 一、電動機軸承斷面 一個
- 一、三菱 1/16吋モータードリル 一個
- 一、三菱 1/2吋モータードリル 一個
- 一、各種セード 二五個
- 一、各種スタンド 二五個
- 一、松下製ナショナル三球 一個
- 一、山中製テレビアン四球 一個
- 一、電氣ノ不思議磁氣ノ妙(實驗裝置) 七種

計 二二二點

第四節 別館

別館は本町に在つて、歴史と萬國手藝館と稱し、兒島高德、楠公父子訣別、羽衣の三場面と高梁高等技藝女學校の出品に係る萬國手藝品八百四十八點を收めてゐる。

別館出品目録

岡山縣高梁高等技藝女學校出品

南米エクアドル學務局

クツシヨソ	一〇	テーブル掛	二
手藝品	七	花瓶數	二
黒ン坊人形	一	セーター標本	四
長靴下	二	寫眞帳	二
手工成續品帳	一	附子	一
白編子鏡掛	一	丸形テーブル掛	二〇
針挿シ	一	飾燈籠	二
ガラス製針箱	一	エクアドル事情	一
切手各種	一	ガラス額面(大)	一

計 七〇點

チエツコスロバキヤ學務局

レリス花瓶數

計 一點

編物見本
ガラス額面(小)

二六



別館内

英國ミツトルスプロ高等女學校

コンピネーション
ズロース

計 六點

腰巻
夜着入袋

子供下着
子供前掛

英國エヂンバラ職業學校

名刺入
桶入
三角形臺
紙切ナイフ
寫眞鏡枠
小棚
ピン入

計 三〇點

金入
木組
インクスタンド
バット模型
貯金箱
カギ掛

針山
木組
ベッ
壁コップ
H型木組

英國エヂンバラ高等女學校

テーブル掛
食器棚裝飾用
食器棚カバー

計 九點

女児服
ハンカチ入

婦人服
刺繡ノ基礎

英國ホーツマス高等女學校

チヨツキ
シユミズ

計 六點

毛糸下着
帶

女學制服(上下)
ズロース

一

ズロース	一	ハンカチーフ	一	ベビー枕カバー	二
敷物	一	肌着標本	一	ウエスト	一
シユミズ	一	子供コンピネーション	一	嬰兒服	一
ナプキン	一				
計	一一點				
北米ラレー市ヒューモーション高等女學校	八	子供服	一	圖案帳	一
婦人服	一				
家事論文	一				
計	一一點				
墨西哥ベラクルズ學務局	一	革製敷物	二	祭日用晴着	一
石鹼細工	一	女児服	一	刺繡額面	一
裝飾品	一	雜誌	一	刺繡額面	一
書籍	七			圖畫額面	一
計	二〇點				
土耳其アングラ學務局 (其一)	一	子供服	一	靴下	一
エプロン	一	刺繡	二	ハンカチ	一
パツク	一	レィス	一	マント見本	一
リンネル乳オサヘ	一	編物	三	編物	一
ナプキン	四	洋服下着	一	ヨダレ掛	一
編物テーブル掛	一	各種細工見本	九	手藝品各種	一五
オーバセーター	一				

北米カリフォルニア州ロスアンゼルス學務局	二	嬰兒靴	一	洋服下着	一
タツシヨソ	二	折靴	一	洋服	一
造花	一	手工品	三	洋畫帳	一
カモジ	一				
計	一五點				
北米オハイオ州クリーブランド公學校	一	テーブル掛	一	婦人服及ズロース	一
女児服	一	手藝品	六	人形ノ着物	一
婦人履(上下)	一				
計	一二點				
白耳義リエージュ職業學校	二〇	圖畫	三	ズロース	二
洋服	一				
ズボン	一				
計	二六點				
濠洲ニュージラランド、オアマル高等女學校	六	女兒水色服	一	白絹子供服(上下)	一
ニュージラランド、パアマアストーン高等女學校	一	ツリバカマ	一		
下着	一				
ズロース	一				
計	五點				
ファイリツピン群島マニラ高等女學校					

三、エヂジバラ	六	三、同	八	三、同	二
五、ポーツマス	六	六、ベルギー	一三	七、同	一五
六、ニュージブラント	六	八、エクアドル、キート	六	九、英プロッドフォード	二二
七、エヂンバラ	九	二、同	一〇	三、エクアドル	二九
一〇、墨西哥ベラクルス	九				
一三、カナダモントリオール	七六				
計	二二九點				
大圖畫ノ部					
一、カナダサンチエゴ	一四	二、北米オハイオ州クリーブランド	一五	三、メキシコベラクルス	一三
四、カナダバロンバイング	一一				
計	六三點				
米國カリフォルニア州サンチエゴ市(雜ノ部)					
サンチエゴ市立學校卒業生名簿	一	サンチエゴ市歴史	一		
計	二點				
在巴里 櫻澤如一氏寄贈(雜ノ部)					
瑞西畫報	一	瑞西案内	一	瑞西旅行案内	二
巴里活動寫眞畫報	一	瑞西風景ノ一部	一	伊太利ナポリ灣風景	一
瑞西風景	一	鐵道畫報	一	英國オックスフォード風景	一

嬰 女 靴	一				
計	四七點				
土耳其アンゴラ學務局(其二)					
カーペット見本	一	タツシヨソ	四	レ	一
ハンカチ	一	壁 掛	一	子 供 服	二
ボルテベビー	一	靴 下	一	刺 繡 見 本	一
ナプキン	四	手 提 籠	一	エ プ ロ ソ ン	一
飾り下衣標本	一	婦 人 胸 衣	一	手 提 袋	一
刺繡テーブル掛	一				
計	二二八點				
希臘サロニカ學務局					
風俗人形	一				
計	一點				
圖 畫 類					
軸物ノ部					
一、墨 西 哥	六	二、同	七	三、同	二
四、同	六	五、同	八	六、同	八
七、同	七	八、エクアドル	一三	九、同	一五
八、同	一五	二、同	一七	三、同	一五
九、同	七	四、同	一七	五、同	一五
一〇、同	三	五、同	七	六、同	一六
一一、同	七	六、同	一	七、同	一
一二、同	四	七、同	四	八、同	三
一三、同	七	八、同	一	九、同	二
一四、同	六	九、同	一	一〇、同	一
一五、同	六	一〇、同	一	一一、同	一
一六、同	六	一一、同	一	一二、同	一
一七、同	六	一二、同	一	一三、同	一
一八、同	六	一三、同	一	一四、同	一
一九、同	六	一四、同	一	一五、同	一
二〇、同	六	一五、同	一	一六、同	一
二一、同	六	一六、同	一	一七、同	一
二二、同	六	一七、同	一	一八、同	一
二三、同	六	一八、同	一	一九、同	一
二四、同	六	一九、同	一	二〇、同	一
二五、同	六	二〇、同	一	二一、同	一
二六、同	六	二一、同	一	二二、同	一
二七、同	六	二二、同	一	二三、同	一
二八、同	六	二三、同	一	二四、同	一
二九、同	六	二四、同	一	二五、同	一
三〇、同	六	二五、同	一	二六、同	一
三一、同	六	二六、同	一	二七、同	一
三二、同	六	二七、同	一	二八、同	一
三三、同	六	二八、同	一	二九、同	一
三四、同	六	二九、同	一	三〇、同	一
三五、同	六	三〇、同	一	三一、同	一
三六、同	六	三一、同	一	三二、同	一
三七、同	六	三二、同	一	三三、同	一
三八、同	六	三三、同	一	三四、同	一
三九、同	六	三四、同	一	三五、同	一
四〇、同	六	三五、同	一	三六、同	一
四一、同	六	三六、同	一	三七、同	一
四二、同	六	三七、同	一	三八、同	一
四三、同	六	三八、同	一	三九、同	一
四四、同	六	三九、同	一	四〇、同	一
四五、同	六	四〇、同	一	四一、同	一
四六、同	六	四一、同	一	四二、同	一
四七、同	六	四二、同	一	四三、同	一
四八、同	六	四三、同	一	四四、同	一
四九、同	六	四四、同	一	四五、同	一
五〇、同	六	四五、同	一	五〇、同	一
五一、同	六	五〇、同	一	五五、同	一
五二、同	六	五五、同	一	六〇、同	一
五三、同	六	六〇、同	一	六五、同	一
五四、同	六	六五、同	一	七〇、同	一
五五、同	六	七〇、同	一	七五、同	一
五六、同	六	七五、同	一	八〇、同	一
五七、同	六	八〇、同	一	八五、同	一
五八、同	六	八五、同	一	九〇、同	一
五九、同	六	九〇、同	一	九五、同	一
六〇、同	六	九五、同	一	一〇〇、同	一
六一、同	六	一〇〇、同	一		
六二、同	六				
六三、同	六				
六四、同	六				
六五、同	六				
六六、同	六				
六七、同	六				
六八、同	六				
六九、同	六				
七〇、同	六				
七一、同	六				
七二、同	六				
七三、同	六				
七四、同	六				
七五、同	六				
七六、同	六				
七七、同	六				
七八、同	六				
七九、同	六				
八〇、同	六				
八一、同	六				
八二、同	六				
八三、同	六				
八四、同	六				
八五、同	六				
八六、同	六				
八七、同	六				
八八、同	六				
八九、同	六				
九〇、同	六				
九一、同	六				
九二、同	六				
九三、同	六				
九四、同	六				
九五、同	六				
九六、同	六				
九七、同	六				
九八、同	六				
九九、同	六				
一〇〇、同	六				

佛國雜誌「パリ」
計 一三點
以上總計 八百四十八點

海峽殖民地畫報

フランス喜劇劇ノ圖

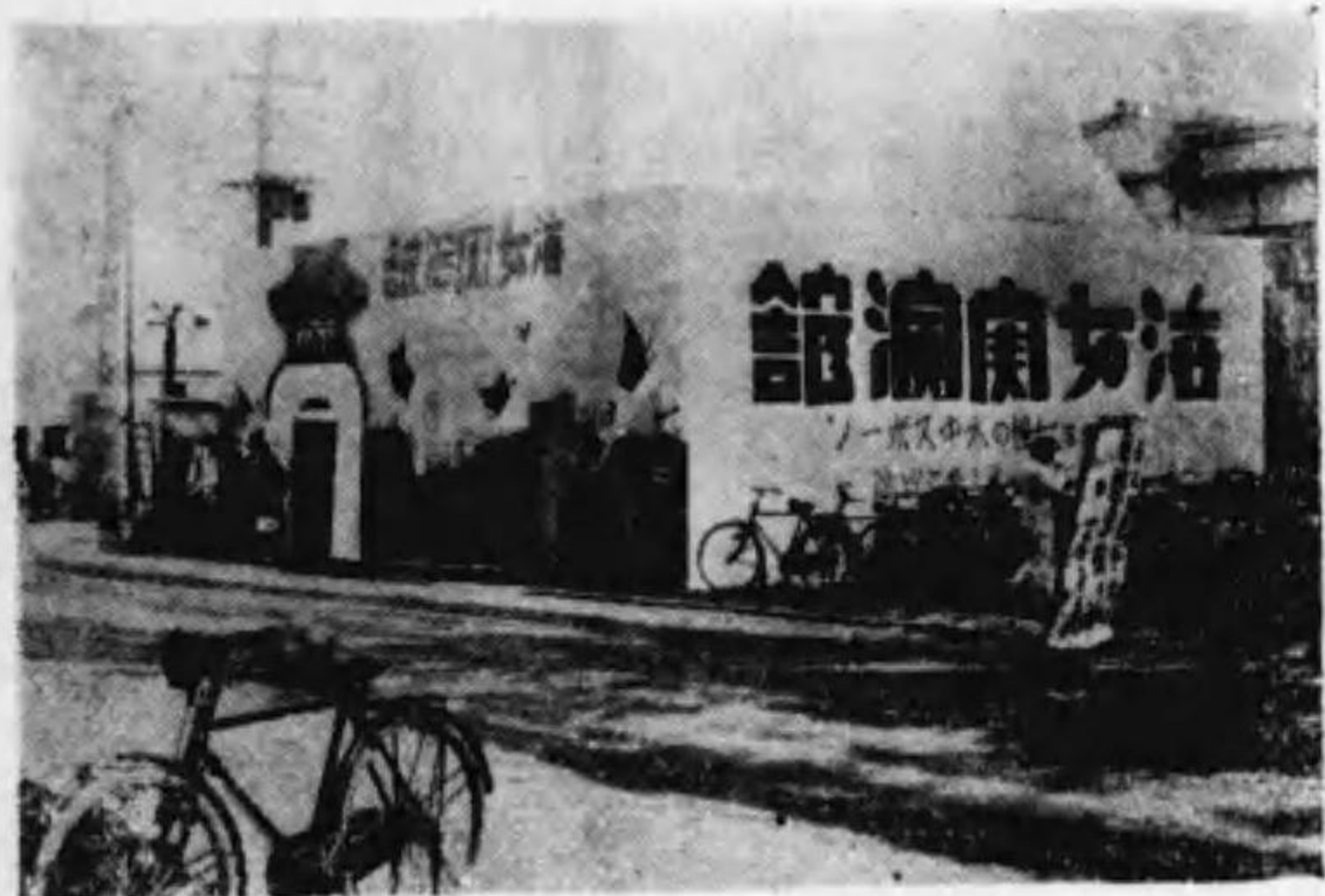
第五節 興行物

博覽會敷地内に興行を許可したものは海女館と動物園の二つで、海女館は四月二十五日より動物園は同三十日より開演、博覽會最終日の深更まで連日興行をつゞけ雨天の日を除く外は常に大入滿員の盛況を呈した。

一、海女館

海女館は眞珠採りで名高い志摩の處女會撰出の優秀海女が海底作業の實演及び水中スポーツの妙技を演ずるもので、館内に長さ四間幅一間半深さ八尺の硝子の大水槽を設け、白シャツ赤裳の海女が眼鼻を掩ふ大きな水中眼鏡をビタリと顔にあて、ザンブと水中に躍込んで水底にもぐることを暫くにして浮び出で、一息ついては眞逆様に水底に没し去り、又浮び又沈むこと兩三回、今度は體を横にして槽壁の正面を傳ひ、軽く身をかはして行きつ戻りつ獲物を伺うの狀を爲し、最後に横轉逆轉水中スポーツの妙技を演ずる。普通の水泳とちがつて作業上の必要から絶対に手をつかはす足を跳ねず、體のうねりと足のさばきで、魚の如く靜に自由自在に泳ぎ廻る様は、他では見られないところである。場内の一隅では眞珠を含んだ生眞珠貝の宣傳販賣をしてゐる。

(入場料大人十錢、小人五錢)



海女館

二、動物園

動物園は桐口猛獸遺サーカス團の一座で、園内を三部に分ち、木戸を入ると舞臺と棧敷があり、演技は先づ賑やかな鳴物入のポケット娘の踊からはじまり、次は女猛獸遺の豹遺で、輪抜け、亂杭渡り、肉の接吻などを演ずる。肉の接吻といふのは肉片を刺した鐵串を口にくはへて、亂杭上の豹に面と向つて喰ひ取らせるのである。次は男猛獸遺のライオン遺で、輪抜け一兩回の後、此の輪に炬火を以て火を點じ、火焰の濛々たる中を一兩回くぐらせる。舞臺わきは動物園で、お廻り、失敬、寝ん寝、などの藝をする内地産の月輪熊、怒り屋の印度虎、氣の短い熊、縞狼、狸、濠洲産の大錦蛇などが居る。次は不思議館で、米國ワカアトル博士の考案に係るキネマ應用パレシジョン法人間の靈化と稱し、盛裝の生美人が見る見る裸體となり白骨となり、再び元の姿にかへるところを見せる。最後は研究館と稱し、鏡面應用の生美人の蜘蛛、同じく生美人の胸像、汲めども盡きぬ瓢箪などを装置し、若干の鳥獸も居る。

(入場料大人三十錢、小人十五錢)

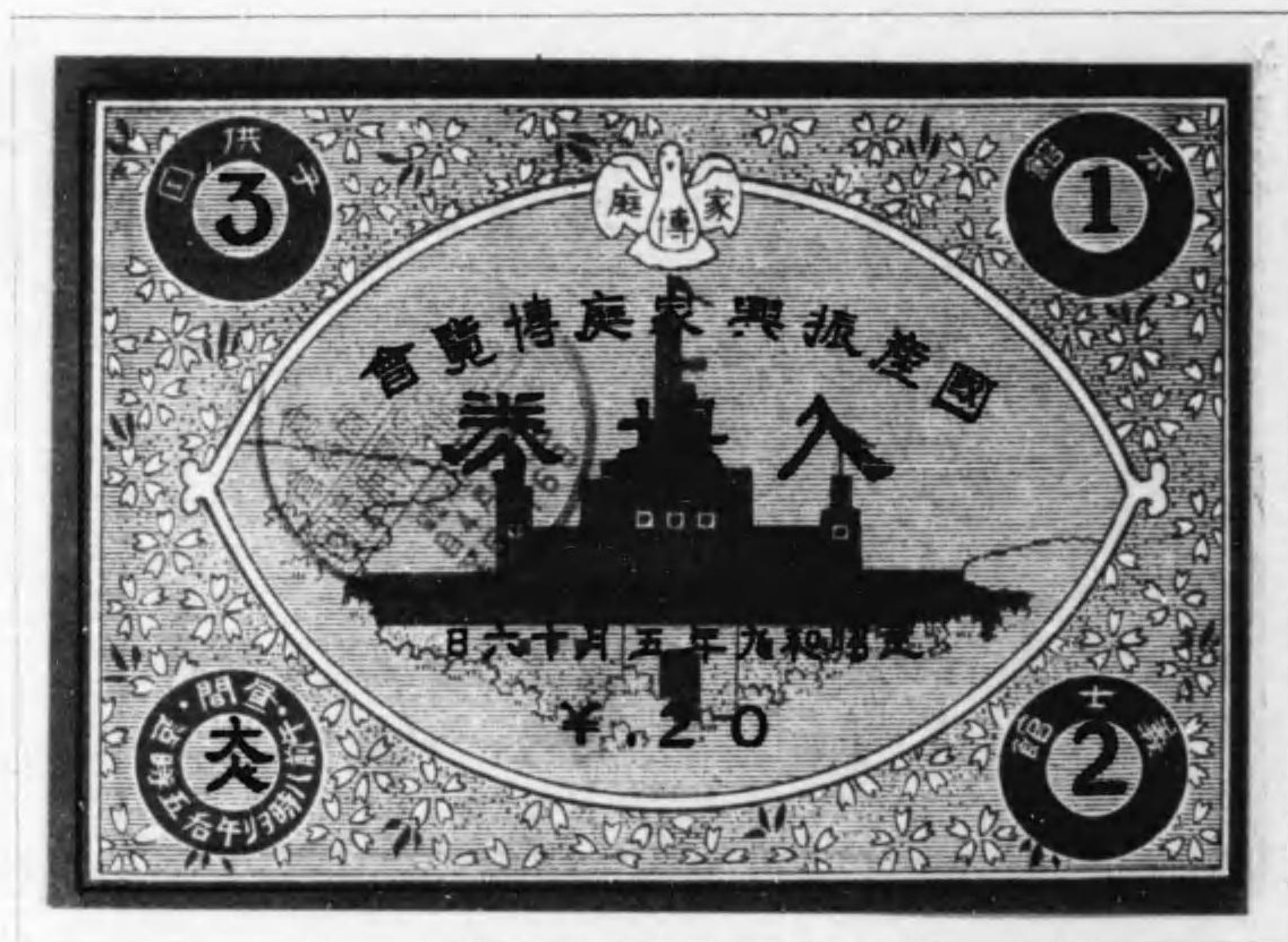


動物園

第十一章 入場

第一節 入場手續

入場料を輕減して觀覽者の便利を圖ることは本博覽會の特に留意した點で、普通入場料大人二十錢、小人十錢、六歳未



満は無料とし、團體及教員引率の生徒に對しては入場料割引規程を設けて割引を行ひ、入場券は全會場各本館並特設館を通じて有効とした。ただ第一會場内怪奇館觀覽者に限り例外として別に大人十錢小人五錢の入場料を徴した。

- 一般入場者の資格は會場取締規程第三條を以て
- 一、本會入場券携帯者
 - 二、本會の優待券無料入場券又は門鑑所持者
 - 三、本會の徽章佩用者
 - 四、出品人入場券所持者
 - 五、憲兵、警察官、郵便集配人、消防夫等にして職務の爲出入する者
 - 六、保護者ある六歳未満の者
 - 七、前各項の外特に本會より發行したる入場證票を所持する者
- と定め、之に對し徽章及通門券發行規程を設けて、徽章、入場券、優待券、特別入場券、門鑑、通券、無料入場券等に關する事項を規定し、別に觀覽人心得をも定めた。(第二章第一節會則參照)

露光量違いの為重複撮影

（161）

場 入 章一第



設施の中留開 編 三第

（162）

満は無料とし、團體及教員引率の生徒に對しては入場料割引規程を設けて割引を行ひ、入場券は全會場各本館並特設館を通じて有効とした。ただ第一會場内怪奇館觀覽者に限り例外として別に大人十錢小人五錢の入場料を徴した。

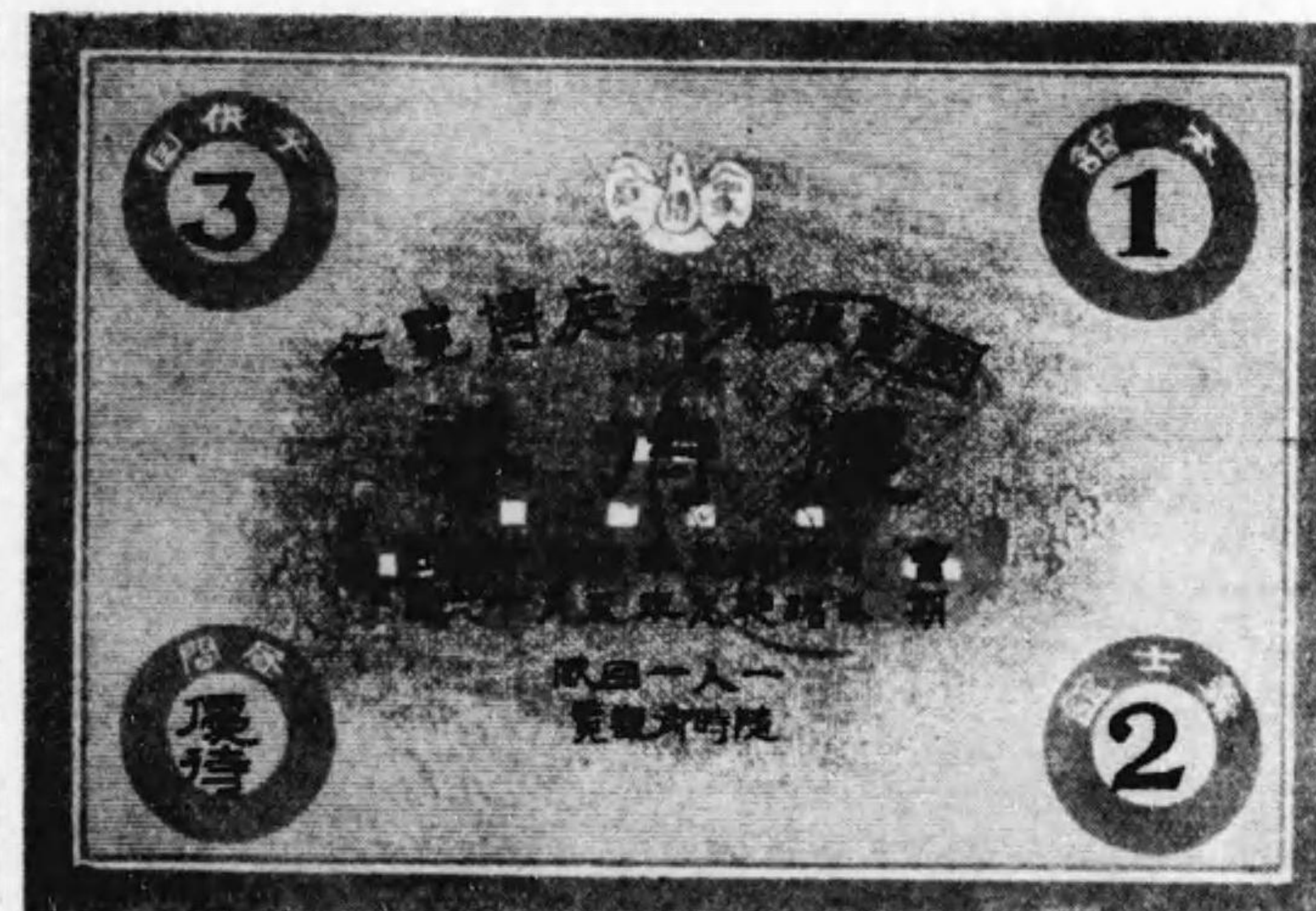
- 一般入場者の資格は會場取締規程第三條を以て
- 一、本會入場券携帯者
 - 二、本會の優待券無料入場券又は門鑑所持者
 - 三、本會の徽章佩用者
 - 四、出品入場券所持者
 - 五、憲兵、警察官、郵便集配人、消防夫等にして職務の爲出入する者
 - 六、保護者ある六歳未満の者
 - 七、前各項の外特に本會より發行したる入場證票を所持する者
- と定め、之に對し徽章及通門券發行規程を設けて、徽章、入場券、優待券、特別入場券、門鑑、通券、無料入場券等に關する事項を規定し、別に觀覽人心得をも定めた。（第二章第一節會則參照）

怪奇館 普大
入場券
 自四月二十二日
 至五月十六日
 大人 ¥.10
 一人一回限
 國產振興家庭博覽會 號

(黒字)

怪奇館 小普
入場券
 自四月二十二日
 至五月十六日
 小人 ¥.05
 一人一回限
 國產振興家庭博覽會 號

(赤字)



(薄茶色、模様に)

(義) (本)
 國產振興家庭博覽會
特別入場券
 自昭和九年四月廿二日
 至昭和九年五月十六日
 (伽)

(白色)

昭和9年 月 日 團體入場券 第 號			
團體名			
引率者氏名			
人員	大人		小人
料金	圓		錢
國產振興家庭博覽會			
	本會場	義士館	子供の國
	I	I	I

(白 色)

昭和9年 月 日 怪奇館團體入場券 第 號			
團體名			
引率者氏名			
人員	大人		小人
料金	圓		錢
國產振興家庭博覽會			

(黃 色)

第二節 入 場 者

本會開設時期は稍遊覽季節に後れ、且つ會期二十五日の中、雨天七日、内土曜日一日日曜日二日で、頗る天候に恵まれなかつたけれども、一日平均三千五十二人、最少七百三十二人、最多七千二百十五人、總計七萬六千二百九十七人で、先づ可なりの成績を収め得た。

更に之を種類別に示せば大要左の如くである。

種類別入場者數

普通入場者	大人 二九、二七七人	小人 四、四一三人
團體入場者	大人 三三、六九〇人	小人 一二、七三三人
怪奇館	大人 一六、三一七人	小人 三、〇四七人
特別入場者	計 一四、七八八人	團體 二、三六四人
無料入場者	大人 五、五六四人	
	小人 二、六六〇人	
	計 五、九三八人	
	小人 三、二七八人	
總計	七六、二九七人	

入場團體一覽

四月廿二日 廣島縣三原女子師範學校、吉備郡服部村女子青年團及高等小學校
同 廿三日 淺口郡里見小學校、同郡梅山小學校、都窪郡福田小學校

四月廿五日 小田郡美川小學校、後月郡美之小學校、總社町軍人會
 同 廿六日 吉備郡吳妹小學校、淺口郡河内小學校、小田郡矢掛小學校、淺口郡連島小學校、都窪郡常盤小學校、淺口郡西浦小學校、吉備郡大和小學校、淺口郡船穂小學校、同郡弘化小學校
 同 廿七日 兒島郡小串女子青年團、廣島縣三原女子師範學校(第二回)
 同 廿八日 兒島郡琴津實科高等女學校、笠岡高等女學校、兒島郡郷内小學校、同郡郷内村青年訓練所
 同 廿九日 金光教復興造營部工務團體
 同 三十日 都窪郡豊洲小學校、兒島郡天城小學校、小田郡吉田公民學校、同郡三成小學校、廣島縣深安郡御野村公民學校、吉備郡蘭村女子青年團、市内難波女學校
 五月一日 吉備郡神在村婦人會、藤戸町濱崎女學校、都窪郡輕部婦人會、淺口郡鴨方東小學校、倉敷高等女學校、都窪郡山手婦人會宿支部、同郡早島女子青年團、上道郡西大寺煙草小賣人組合、三重縣上野町商工會、都窪郡山手青年訓練所
 同 二日 小田郡稻倉小學校、吉備郡大井青年訓練所、成羽高等女學校、市内旭町春和學園
 同 三日 淺口郡長尾足袋工業組合、都窪郡清音小學校、兒島郡下津井小學校、淺口郡鴨方青年訓練所、都窪郡山手小學校、市内守屋裁縫女學校、兒島郡兒島町青年訓練所
 同 四日 淺口郡大島小學校、都窪郡茶屋町小學校、淺口郡徳本小學校、吉備郡泰實業公民學校、同郡川邊小學校、同郡久代小學校
 同 五日 淺口郡金光小學校、市内萬壽小學校、都窪郡加茂村造山女學校、吉備郡足守公民學校、倉敷商業學校
 同 六日 上道郡富山校同窓會、淺口郡長尾町小野技藝女學校、川上郡手莊小學校
 同 七日 倉敷實業學校、倉敷高等女學校(第二回)
 同 八日 市内大高小學校、吉備郡日近補習學校、小田郡北川國民學校、倉敷高等女學校(第三回)

五月九日 上房郡高梁小學校、倉敷高等小學校、吉備郡神在小學校、都窪郡帶江小學校、兒島郡灘崎公民學校、都窪郡中庄小學校、倉敷商業學校(第二回)
 同 十日 倉敷尋常小學校、倉敷高等小學校(第二回)、倉敷高等女學校(第四回)
 同 十一日 廣島縣絲崎小學校、都窪郡福田村青年訓練所、倉敷商業學校(第三回)
 同 十二日 倉敷尋常小學校(第二回)、兒島郡玉小學校
 同 十三日 上道郡西大寺町青年訓練所、都窪郡早島町婦人會、吉備郡二萬小學校
 同 十四日 兒島郡粒江小學校、都窪郡中洲小學校、兒島郡藤戸町青年訓練所
 同 十五日 吉備郡新本小學校、淺口郡六條院青年訓練所、兒島郡郷内消防組、上房郡有漢青年團
 同 十六日 都窪倉敷女子青年團

國産振興家庭博覽會入場者調

(自昭和九年四月二十二日 至昭和九年五月十六日 二十五日間)

月日	曜	天候	普通		團體		特別入場者		無料		合計	累計
			大人	小人	大人	小人	優待券	通券	特別入場券	大人		
四月三日	日	晴	六〇	五〇	八	〇	〇	〇	〇	〇	六八	一、一七
四月四日	月	晴後雨	七〇	四〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一一〇	一、二八
四月五日	火	雨後晴	九〇	三〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一二〇	二、四八
四月六日	水	晴	九〇	三〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一二〇	三、六八
四月七日	木	晴	五三	三三	一、八三	三三	〇	〇	〇	〇	一、〇〇	四、六八
四月八日	金	晴	一、〇〇	五三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一、五三	六、二一
四月九日	土	晴	一、〇〇	四六	一、九	三三	〇	〇	〇	〇	一、四九	七、七〇
四月十日	日	雨	五三	二九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	八二	八、五二
			合計	六、〇〇	一、八三	〇	〇	〇	〇	〇	七、八三	一五、〇五

第十二章 協 賛

博覽會は地元の熱心なる協賛援助なくしては成立しないものである。本博覽會は幸にも協賛寄附に協賛事業に、多大の支援を受けて所期の目的を達成し得た次第で、茲に關係各位に對し深甚の謝意を表する。

第一節 協 賛 寄 附

本會の開催に方つては、別に協賛會等を組織せず、本會より直接市内有志及附近町村に協賛援助を懇請し、左の依頼狀を發した。

拜啓愈御多祥之段奉慶賀候

陳者來ル昭和九年四月二十二日ヨリ五月十六日ニ至ル二十五日間倉敷市並倉敷商工會議所共催ニテ別紙趣意書並規則書ノ通國產振興家庭博覽會ヲ開催致ス事ニ相成準備着々進捗致居候モ今後諸種ノ計畫ヲ樹ツル都合モ有之貴下(貴町村)ノ特別ナル御援助ニ依リ所期ノ目的ヲ達成致度候間何卒事情御賢察ノ上可然御援助相煩度願上候
右乍失禮以書中御依頼申上候

昭和九年 月 日

國產振興家庭博覽會長
倉敷市長 平松俊太郎

殿

寄 附 申 込 書

一金

但國產振興家庭博覽會協賛寄附金

右 申 込 候 也

昭和九年 月 日

住 所

氏

名

國產振興家庭博覽會長

倉敷市長 平松俊太郎 殿

右に對し協賛寄附を申込まれた向は別項芳名錄所載の通り極めて多數に上り、各頭書の金額を寄附せられ、總額五千〇八圓五十錢に達した。

國產振興家庭博覽會協賛寄附者芳名錄 (順序不同)

倉敷市

五〇〇〇 ^円 新川町 大原孫三郎	五〇〇〇 ^円 榮町 倉敷紡績株式會社	五〇〇〇 ^円 同	倉敷紡績株式會社
二〇〇〇 ^円 本町 原澄治	二〇〇〇 ^円 前神町 北田久右衛門	一五〇〇 ^円 戎町 鳥越光次	
一五〇〇 ^円 市内 倉敷同盟銀行	五四、五〇 神戸海上火災保險倉敷代理店	五〇〇〇 ^円 東町 難波彌一郎	
五〇〇〇 ^円 東町 楠戸合名會社	五〇〇〇 ^円 本町 林源十郎	五〇〇〇 ^円 戎町 同(木山巖太郎)	
四〇〇〇 ^円 阿知町 内田金衛	四〇〇〇 ^円 同 三宅金作	四〇〇〇 ^円 土手町 河原宇平	
三四〇〇 ^円 會場内 特賣館出品者並 商店一同	三〇〇〇 ^円 東町 森田筒二	三〇〇〇 ^円 本町 岡田義平	
三〇〇〇 ^円 本町 直村和二郎	三〇〇〇 ^円 中町 鴨井銀三	三〇〇〇 ^円 戎町 木村利太郎	
三〇〇〇 ^円 榮町 カモキハイトリ紙工場	三〇〇〇 ^円 阿知町 小河原勝野	三〇〇〇 ^円 同	小松原卓一

一〇、〇〇〇	榮 町	倉敷合同運輸株式會社	一〇、〇〇〇	同	秋山 福一	一〇、〇〇〇	同	岡本 榮吉
一〇、〇〇〇	榮 町	片岡 宗一	一〇、〇〇〇	同	岩知道 定一郎	一〇、〇〇〇	同	龍治 節三
一〇、〇〇〇	西榮町	三宅 清	一〇、〇〇〇	阿知町	中桐佐 太郎	一〇、〇〇〇	同	光畑 岩吉
一〇、〇〇〇	阿知町	河田用 七	一〇、〇〇〇	同	龜山 晋	一〇、〇〇〇	同	荻野 育子
一〇、〇〇〇	川西町	小野廣 一郎	一〇、〇〇〇	新川町	大橋 高之	一〇、〇〇〇	同	加藤清 一郎
一〇、〇〇〇	新川町	内藤 午一	一〇、〇〇〇	同	西崎 誠一	一〇、〇〇〇	同	小野 きな
一〇、〇〇〇	土手町	河原好 平	一〇、〇〇〇	同	加納彌 一郎	一〇、〇〇〇	同	岡本 右左太
一〇、〇〇〇	土手町	西藤 岩吉	一〇、〇〇〇	船倉町	近藤敬 次郎	一〇、〇〇〇	同	木口 福次郎
一〇、〇〇〇	萬町	上岡 嘉七	一〇、〇〇〇	壽町	山室 積治	一〇、〇〇〇	同	難波善 右衛門
一〇、〇〇〇	西大町	岡本 筆野	一〇、〇〇〇	濱	高吉真 一郎	一〇、〇〇〇	同	三宅平 左衛門
一〇、〇〇〇	御船町	岡本 圓二	一〇、〇〇〇	中央病院	宇野 俊治	一〇、〇〇〇	同	吉澤 八郎
一〇、〇〇〇	中央病院	山口 治	一〇、〇〇〇	同	和田 咲三郎	一〇、〇〇〇	同	林 雄造
一〇、〇〇〇	中央病院	山口 直治	一〇、〇〇〇	同	松原 良一	一〇、〇〇〇	同	本多 操
一〇、〇〇〇	市役所	平松 俊太郎	八、〇〇〇	川西町	石井 嘉市	五、〇〇〇	東 町	江口 十七藏
五、〇〇〇	東 町	織田 宗次	五、〇〇〇	本 町	田邊 金平	五、〇〇〇	戎 町	林 元治郎
五、〇〇〇	戎 町	西崎 忠平	五、〇〇〇	同	三宅 秋恵	五、〇〇〇	同	平松 幸藏
五、〇〇〇	濱田町	横溝 吉助	五、〇〇〇	同	石井 ミツ	五、〇〇〇	同	毛利 保三郎
五、〇〇〇	濱田町	横溝 吉助	五、〇〇〇	同	小野 順一	五、〇〇〇	同	關藤 忠雄
五、〇〇〇	旭 町	佐々木 敬次郎	五、〇〇〇	旭 町	船現 貞治郎	五、〇〇〇	同	今岡 次郎
五、〇〇〇	榮 町	三宅 上志	五、〇〇〇	同	松尾 卯八	五、〇〇〇	同	宇野 信夫
五、〇〇〇	榮 町	辻 孝平	五、〇〇〇	同	渡邊 政一	五、〇〇〇	同	伏見 健吉
五、〇〇〇	榮 町	龜山 孝平	五、〇〇〇	同	城戸 福松	五、〇〇〇	同	宇野代 三郎
五、〇〇〇	阿知町	渡邊 卯吉	五、〇〇〇	同	東 清一	五、〇〇〇	同	藤原 萬吉

二〇、〇〇〇	新川町	渡邊源 太郎	二五、〇〇〇	本 町	林 喬一	二〇、〇〇〇	同	本 町 會
二〇、〇〇〇	本 町	内田 彌八	二〇、〇〇〇	同	坂部 浩	二〇、〇〇〇	同	森江 要平
二〇、〇〇〇	濱田町	河上 孝良	二〇、〇〇〇	同	三橋 玉見	二〇、〇〇〇	旭 町	日本産業株式會社
二〇、〇〇〇	榮 町	上田 保太	二〇、〇〇〇	同	大森 精一	二〇、〇〇〇	同	原田 輝雄
二〇、〇〇〇	西榮町	石井 熊夫	二〇、〇〇〇	同	株式會社倉敷檢査	二〇、〇〇〇	阿知町	大橋平 右衛門
二〇、〇〇〇	川西町	木村 光一	二〇、〇〇〇	新川町	大橋 藤一郎	二〇、〇〇〇	前神町	藤岡 耐三
二〇、〇〇〇	濱	惠藤 熊太郎	二〇、〇〇〇	御船町	岡本 又三郎	二〇、〇〇〇	同	福山 榮次郎
一五、〇〇〇	東 町	大川 薫	一五、〇〇〇	同	土屋 近市	一五、〇〇〇	本 町	式會社倉敷支店
一五、〇〇〇	本 町	藤井 繁次郎	一五、〇〇〇	同	三宅 熊七	一五、〇〇〇	同	新谷 清喜
一五、〇〇〇	戎 町	脇本 正夫	一五、〇〇〇	濱田町	吉村 猪吉郎	一五、〇〇〇	旭 町	白神 理吉
一五、〇〇〇	榮 町	村岡 順太郎	一五、〇〇〇	同	赤木 元藏	一五、〇〇〇	同	吉田 壽次
一五、〇〇〇	榮 町	中野 操太郎	一五、〇〇〇	西榮町	大高 孫次郎	一五、〇〇〇	同	佐々木 繁太郎
一五、〇〇〇	阿知町	長谷部 定雄	一五、〇〇〇	同	白神 源次郎	一五、〇〇〇	同	東 泰一
一五、〇〇〇	阿知町	若林 平三郎	一五、〇〇〇	同	三宅 藤三郎	一五、〇〇〇	同	井上 直太郎
一五、〇〇〇	若松町	藤原 幸吉	一五、〇〇〇	新川町	大橋 竹	一五、〇〇〇	壽 町	松尾 坂次郎
一五、〇〇〇	土手町	西藤 未吉	一〇、〇〇〇	東 町	木村 政次	一〇、〇〇〇	同	大久保 國太郎
一〇、〇〇〇	本 町	井上 惣太郎	一〇、〇〇〇	同	木本 政次郎	一〇、〇〇〇	同	小林 安吉
一〇、〇〇〇	戎 町	木村 靖	一〇、〇〇〇	同	田邊 榮治	一〇、〇〇〇	同	森本 九平
一〇、〇〇〇	濱田町	倉敷自動車株式會社	一〇、〇〇〇	同	岡本 隆正	一〇、〇〇〇	同	三宅 正平
一〇、〇〇〇	濱田町	平野 新一郎	一〇、〇〇〇	同	大倉 一義	一〇、〇〇〇	同	後藤 嘉美榮
一〇、〇〇〇	濱田町	杉原 善三郎	一〇、〇〇〇	旭 町	森田 源二	一〇、〇〇〇	同	永山 榮一
一〇、〇〇〇	旭 町	藤木 組	一〇、〇〇〇	同	植村 俊二	一〇、〇〇〇	同	岩藤 彌惣治
一〇、〇〇〇	旭 町	伏谷 ッキ	一〇、〇〇〇	同	小堀 利一郎	一〇、〇〇〇	榮 町	高谷 菊平

五〇〇	阿知町	山川 融	五〇〇	同	小川 清一	五〇〇	同	秋山 一伎
五〇〇	阿知町	橋本 礎一	五〇〇	同	宇野 善吉	五〇〇	同	小河原 壯平
五〇〇	川西町	安田 和之	五〇〇	同	岡山無蓋倉敷出張所	五〇〇	同	江口 斐子
五〇〇	川西町	内田 夏野	五〇〇	同	窪田 茂一	五〇〇	同	難波 峰乃
五〇〇	川西町	富田 次太郎	五〇〇	同	片山 儀三郎	五〇〇	同	片山 秀吉
五〇〇	新川町	龜山 龍三	五〇〇	同	平松 藤平	五〇〇	同	原田 清太郎
五〇〇	新川町	安田 藤三	五〇〇	同	脇本 恵吉	五〇〇	同	小野 嘉一
五〇〇	新川町	秋山 常七	五〇〇	濱	平松 玉太郎	五〇〇	市役所	黒崎 勝男
三〇〇	本町	中原 彦太	三〇〇	濱田町	岡 隆一	三〇〇	同	高島 太助
三〇〇	濱田町	根岸 彌之輔	三〇〇	栗町	田 淵 愈	三〇〇	同	古谷 常男
三〇〇	阿知町	安田 清三郎	三〇〇	同	岡本 緩次	三〇〇	同	水川 萬藏
三〇〇	若松町	森 茂夫	三〇〇	川西町	井原 重三郎	三〇〇	同	三谷 サノ
三〇〇	川西町	三宅 一二	三〇〇	新川町	須原 一男	三〇〇	同	鴨井 八十治
三〇〇	向市場町	大原 十次郎	二〇〇	阿知町	平岡 是治	二〇〇	同	三宅 小平
二〇〇	阿知町	岡本 久平	二〇〇	若松町	大野 ヲギン			
二〇〇	茶屋町長	河西 一郎	一五〇〇	帯江町長	楠戸 友太郎	一五〇〇	中洲町長	三宅 平十郎
一五〇〇	清音村	江口 武雄	一五〇〇	中庄町長	古谷 博	一五〇〇	菅生町長	山内 正
一五〇〇	早島町長	矢吹 貫一郎	一〇〇〇	常盤村	常 盤 村	一〇〇〇	庄町長	内田 善介
一〇〇〇	三須村長	國 富 慎策	一〇〇〇	豊洲村長	横尾 延太郎	一〇〇〇	妹尾町	妹尾 町 役 場
一〇〇〇	山手村長	友野 宇太郎	一〇〇〇	加茂村長	小野 嘉四郎	一〇〇〇	撫川町長	太田 和 一 郎
一〇〇〇	福田村長	神崎 美起太	五〇〇	西阿知町	岡 勝 平			

第二節 協賛事業

一〇〇〇	吉備郡	片岡 里二	一〇〇〇	総社町長	池上 勢平	一〇〇〇	川邊町長	定廣 輝治郎
五〇〇	高松町長	大森 本衛	五〇〇	眞金町長	中山 宗太郎	五〇〇	庭瀬町長	高橋 福次郎
一〇〇〇	福田村長	末長 毅	一〇〇〇	粒江村長	小川 貴	一〇〇〇	日比町長	關 藤 碩 衛
三〇〇	味野町長	秋野 季平						
一〇〇〇	玉島町長	守安 類四郎	一〇〇〇	金光町	金光 教本部	一〇〇〇	金光町長	平田 良平
五〇〇	長尾町長	浅野 隆彦	五〇〇	船橋村長	中桐 喜八	五〇〇	連島町	連島 町 役 場
三〇〇	西中山下	伊原 木 藻 平						
三五〇〇	本所區	乃村 泰 資						

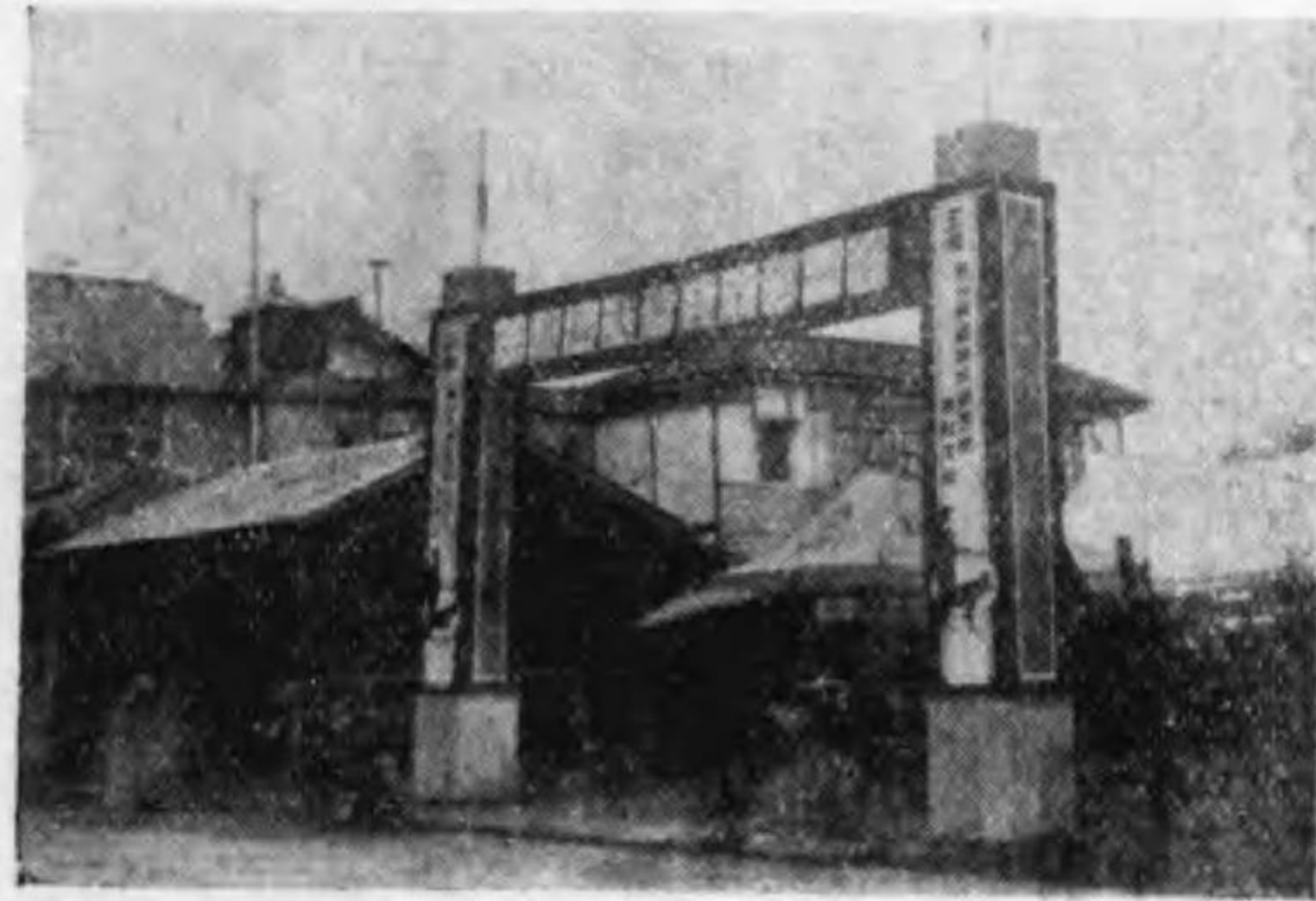
(以上二百四十二名)

本會協賛の爲め町總代會は全市を擧げて各方面の投助に努力することとなり、街頭には各戸宣傳裝飾用の岐阜提灯及三角ポスターをつるし、會場附近には祝塔、裝飾塔、アーチ、雪洞等を建て列ね、紅白の幕を張るなど十二分に博覽會氣分を高調させた。

特殊の協賛事業としては、第一回全國畜犬共進會、市内商店廣告行列、川西町協賛踊、第一回倉敷演武大會、市内優良商店訪問競走、大朝オートジャイロ機の本會訪問飛行、縣下軟式野球大會等の催があつて本會に氣勢を添へられた。

一、第一回全國畜犬共進會

第一回全國畜犬共進會は岡山縣軍用犬俱樂部倉敷支部の主催で四月廿八、九兩日本會敷地内市役所前空地に開催された。初日は晴天であつたが第二日の日曜日は生憎雨天で出足を阻まれた。それでも出犬者地域は縣下は固より大阪、神戸、



全畜共進會

姫路、高松、丸龜、坂出等の各地に及び、出陳犬數九十三頭、セバード以下各種の優良犬を集め、審査員の審査、投賞、訓練實演等もあつて、軍用犬保護獎勵に資するところ尠からず、時節柄有意義な催であつた。

二、第二回市内商店廣告行列

第二回市内商店廣告行列は博覽會も酷な五月四日、五日の兩日倉敷商工會議所主催の下に舉行、二日とも天候に恵まれ、大盛況裡に終始した。

第一日は午後一時會議所前に勢揃ひし、音楽隊を先頭に、鴨井商の取扱商品を巧に表現した延々たる行列、赤澤商店の旗行列、河田金物店の武士姿に大庖丁といふ奇抜な扮装、久保履物店の紅白鼻緒大下駄、阿知町銀座専門店の各店取扱商品を積込んだ寶船の行列など、意匠とりどりで賑々しく市中を練廻り、第二日も同じく午後一時から出動、沿道の喝采を博し、全市の人氣を沸立たせ、廣告價值百パーセントで、博覽會に尠からず景氣を添へた。なほ審査の結果一等から五等までそれ〴〵賞狀並賞品を授與された。

第一日道順

濱田町會議所前—旭町市役所前—博覽會場前—大黒町—東町—本町—今橋—新川町—川西町—阿知町—本町—我町—濱田町—萬町—御幸町—驛前—會議所前

第二日道順

濱田町會議所前—榮町—西榮町カモキのハイトリ紙工場前—榮町—新町—若松町—稻荷町—西大町—御崎—向市場町—本町—トンネル—旭町博覽會場前—市役所前—會議所前

三、川西町協賛節

市内川西町では本會協賛の爲め信太狐の山車を美装の女子五十人許に曳かせ、踊子の青年少女が鳴物に合はせて倉敷音頭を踊りに踊り、五月四日、五日の兩夜市内を練廻り、大人氣を博した。

倉敷音頭 (川西町新作)

ハア—花の倉敷 チョイト 博覽會へ ヨイ〴〵

信太狐が 〴〵 浮れ出た サテ

ヤーレ コンコン コンチキナ 〴〵

ハア—見たか倉敷 チョイト 一度はおいで ヨイ〴〵

街の中央に 〴〵 トンネルが サテ

ヤーレ コンコン コンチキナ 〴〵

ハア—倉敷天文臺 チョイト 日本で一二 ヨイ〴〵

労働科學に 〴〵 美術館 サテ

ヤーレ コンコン コンチキナ 〴〵

ハア—産業倉敷 チョイト 備中の都 ヨイ〴〵

街も繁昌と 〴〵 踊りませう サテ

ヤーレ コンコン コンチキナ 〴〵

四、第一回倉敷演武大會

第一回倉敷演武大會は大日本武徳會岡山支部倉敷支所主催で尙武の佳節五月五日倉敷武徳殿に開催され、試合組數劍道

二四〇組、柔道四二〇組、同時に第六回都窪青年演武大會青年團體試合が行はれ、各團體より正員五名補缺一名の一組を出し、試合組數劍道一六組、柔道六組の試合あり、午前九時から午後五時まで龍捲虎搏の熱戦を演じ非常の盛會であつた。

五、市内優良商店訪問競走

市内百二十一店の加盟により、岡山民報社主催の下に舉行した優良商店訪問競走は、五月七日絶好の晴天に恵まれ、午前十一時より市役所前を出発點として開始、審判長競技の注意事項を述べ、同十一時三十分號聲一發各選手スタートを切り、第一訪問店三宅醬油會社へ向けて出發、同所で最初のサインを受け、順次加盟店全部を訪問し、決勝點に這入つたが、各商店では盛に選手の訪問を歓迎し、通過道路筋は日曜日ではあり多數の見物人が詰掛けて大賑ひを呈し、同社では一等より五等までの優勝選手を號外によつて即報して競走の幕を閉じた。

六、大朝オートジャイロ機の訪問飛行

空の愛嬌者大阪朝日新聞社のオートジャイロ機は四國遍路の旅を済ませ、豫定より一日後れて五月九日午前十時四十五分市の南方から聞き馴れぬ柔かな爆音を響かせつゝ本會上空に現はれ、機上の竹トンボをゆるやかにまはらせながら悠々旋回、出迎へた會長以下幹部、入場中の觀覽者、戸外へ飛出した市民の頭上を二周の後、東の空へ飛去つた。この珍らしい空の訪問客は第一會場前庭真上から通信筒を落下、左のメツセーヂを會長に寄せられた。

倉敷市並に倉敷商工會議所共同主催にかゝる國產振興家庭博覽會の御盛況を祝し併せて貴市將來の御發展を祈ります

昭和九年五月八日



訪來の機ロイヤル朝大

大阪朝日新聞社

國產振興家庭博覽會會長

倉敷市長 平松俊太郎 殿

右に對し會長は直に左の謝電を發した。

貴社オートジャイロノ御來訪ヲ辱ウシ謹ミテ感謝ノ意ヲ表ス

七、縣下軟式野球大會

縣下軟式野球大會は市内植村俊二、淺野貢兩氏の主催で、本會開期中最後の日曜日たる五月十三日會場裏手の倉紡グラウンドに開催された。前日來の悪天候にもめげず、縣下各地及福山市より馳せ參じたチーム十六に及び、非常の盛會であつたが、不良の天候に阻まれて、試合は博覽會閉會後に持越されるに至つたのは遺憾であつた。本博覽會よりは參加各チームに對して參加賞を贈つた。

第十三章 閉會

會期二十五日に亘る國產振興家庭博覽會は盛況裡に最終日を迎へ、五月十六日午前十時から、會場に隣接せる倉敷武徳殿で閉會式を舉行、來賓岡山縣工業試驗場長田中六郎氏をはじめ百數十名參集し、定刻一同着席、記念の菓子折を贈呈平松會長は先づ起つて大要次の如き挨拶を述べた。

會長 挨拶

本日國產振興家庭博覽會閉會式を舉行するに方り大方各位の御參列を請ひました處、多數綜合御臨席下さつたことは本會の欣幸とする所で、厚く御禮申上げます。

當博覽會は規模も小さし設備も不十分ではありましたが、當市が初めての試として、一種の主義の下に計畫を立て、

國産の振興、家庭經濟の合理化を標榜して世間の参加を求めました處、三府十五縣に亘り、且つ遠くは南洋廳等の熱列なる御協賛を得、去月二十二日開會以來、比較的内容の充實せる事、態度の極めて眞摯である點等に因るものか、望外の好評を博しまして、惠まれざりし天候、開會時期等の關係で、豫想程とはいへないまでも、毎日相當多數の觀覽者を得て、可なり盛況裡に終始し、開設の目的も略ぼ達成し得たりと信ぜらるゝ程度の成果を得ましたことは本會の窃に本懐とする所でありまして、是れ偏に關係各位の御援助に依るものと常々感謝致して居ります次第で、今日閉會に方り、参加各府縣市町村、各團體の當局並各新聞社、全市民等に對して深甚の謝意を表します。

尙今回の博覽會は當市初めての催であり、局に當る者皆無經驗であつた爲、萬事に付不行届、手違等多く、之れが爲め各方面に對し御迷惑を掛けし點も多からんと存じ、此の點深く御詫申上げます。

簡單ながら之を以て閉會の御挨拶と致します。

之に對し、田中岡山縣工業試験場長は來賓を代表して、

只今會長は本博覽會は當市最初の試であり當局者は全くの素人だと申されましたが、本會は内容の整備と經營其の宜しきを得たるとにより、明かに成功されたもので、吾々は多くの利益する所が有つたのである。斯の種の博覽會が各都市で開かるるといふことは、其の頻繁なだけそれだけ、産業の振興により多くの貢獻を爲すものであるから、當市に於いて次期博覽會を開催せらるゝ日の一日も速ならんことを切望する

旨を述べて激勵せらるる所あり、萩尾久留米市書記は出品人總代として左の祝辭を朗讀された。

祝 辭

國産振興家庭博覽會會期満了ヲ告ケ本日ヲ以テ閉會式ヲ舉行セラル開會以來二十有五日其ノ間當局者各位ノ努力ニ依リ克ク豫期以上ノ成果ヲ收メ産業經濟ノ發展ニ貢獻セラレタルコト勲カラサルハ誠ニ感謝ニ堪ヘサル所ナリ不肖等益奮勵事ニ從ヒ以テ本會開設ノ趣旨ニ副ハムコトヲ期ス

茲ニ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和九年五月十六日

出品人總代

久留米市書記 萩 尾 貞 造

かくて林副會長閉式の挨拶を述べて式を終り、來會者は思ひ思ひに各會場を巡覽して最後の名残を惜んだ。

當日林南洋廳長官は特に左の祝電を寄せられた。

貴博覽會閉會ニ方リ御成功ヲ祝ス

林 南洋廳長官

閉會式當日は開會式當日と同様、前日來から引續いての日本晴に、本會掉尾の割引デーと夜間開場で、午後十時を過ぐるまで觀衆引きも切らず、申分なき盛況裡に午後十一時いよゝ最後の幕を閉じた。

第四編 殘務整理及成績

第十四章 殘務整理

第一節 事務局の組織變更及閉鎖

五月十六日閉會後引續き會場内にて殘務整理に従事せる事務局は會場の整理大體完了するを待つて十九日再び市役所内に移轉し、囑託事務員が専らその整理に當ることとし、爾後事務の進捗につれて漸次減員、同月末には二名を餘すのみとなり、七月十七日整理結了と共に事務局を閉鎖し、爾後本博覽會に關する事務は市産業課に於て處理する事とした。

第二節 大福引景品の本抽籤及引渡

開會當日より閉會まで入場者三千人毎に豫選抽籤を行つた大福引は所定の通り閉會翌日の午前十時本抽籤を行ひ、當選番號を會場正門前に掲示すると共に地方新聞紙上に發表したが當選者の景品引換申出數は豫想外に尠く、有効期間の五月三十一日を経過して無効となつたものが多かつたのは遺憾であつた。

國產振興家庭博覽會大福引抽籤當選者番號

(五月十七日午前十時抽籤)

- 一等 一人
ろ一、三五一
- 二等 二人
か 七八三 ぼ二、六九四
- 三等 三人

- を 九五六 と二、九六三
- 四等 四人
へ二、二七九 ぬ二、六二一
- 五等 五人
に一、八一四 ぼ一、二三九
- 六等 六人
を 七五三 ぼ 四五九
- 七等 五人
る二、〇〇四 い二、二三六
- 八等 十人
よ一、七五〇 ぬ 三六九
り 五五五 へ一、二九一
- 九等 十五人
い一、三二四 か二、二六五
ほ一、四一九 る二、六六三
り一、三〇四 か 四四九
- 十等 百五十人
い 二九六 ろ二、五四四
ぬ一、一四三 よ 九六七
ち 九八 い二、〇一〇
- ろ二、二二一
と 四五五
ぬ二、九八七
- へ一、九六五
へ一、五八三
に一、三八五
- に二、二七七
へ二、二一四
る一、九二三
- わ一、二七七
る二、六七五
り 六九二
- ろ一、二四三
ぬ二、二六〇
に二、五九〇
- い 八〇八
を二、二〇〇
い二、八七一
- ろ 五一七
- よ二、二八〇
る一、八一〇
- よ 八〇二
に 四〇六
- へ一、二六四
よ一、三六八
か二、五四三
を一、八五二
- よ 一・一五三
と二、四八七
ぬ・八五四
よ一、八六三
- い 一一六
ぬ 八五四
か二、二六五
を一、八五二
- に 七八〇
に 七八〇
を一、五九一
り二、六六五
る一、八四四
- に二、二七二
を二、二〇〇
を二、二〇〇
い二、二〇〇

ぬ一、五〇二	に二、〇二五	わ	三九七	へ二、四六四	り二、八二二	ぬ	三二五	
を一、六六二	ほ二、七七三	か二、六九〇	ほ二、七八九	を二、六七四	り一、五三一	り	一、五三一	
る 八九	い 六九三	ぬ一、四〇一	か 四五八	い 四三四	わ	二九二	わ	二九二
に一、七七九	ほ 五三八	を一、五八七	わ二、六一五	り一、二四九	よ	二〇八	よ	二〇八
ち 八九八	り一、三六五	よ二、九七三	を 一五	へ 二七〇	と	三二一	と	三二一
へ一、五四〇	ぬ 二二二	わ二、五一九	に一、一〇六	わ二、二三七	い	一、三七九	い	一、三七九
る一、一五一	ち一、一五五	り一、一四二	ち 七二	ぬ一、四四二	ろ	二、八七三	ろ	二、八七三
を二、五〇九	と二、四七二	に 四六七	ち一、二四〇	ろ一、〇八二	を	六三九	を	六三九
と一、八〇八	を二、六八四	ろ二、九二二	に一、一三九	ぬ 七〇六	わ	一一五	わ	一一五
を一、三三七	と一、一九四	ほ一、三五四	ぬ 七七二	に一、四七五	い	六三一	い	六三一
か 四五五	を二、三三三	り二、〇八九	ほ二、二四七	に一、六五三	り	二、二六九	り	二、二六九
か 九二二	に 三〇五	と一、九五三	に二、六一六	か 六六八	と	一、八七九	と	一、八七九
を 一一五	ほ二、九五二	ち一、〇八九	り 三〇二	に 五六四	と	三三一	と	三三一
に三、三〇六	ち一、二一六	か二、三四一	に 六一六	ち二、二五五	ほ	一、七三〇	ほ	一、七三〇
り二、三二六	ち二、七二四	ほ一、三三二	ち一、四五三	に二、九五二	ち	二、三七五	ち	二、三七五
る二、五八五	へ二、四三九	か一、四二五	に一、五八九	を二、九九一	ろ	二〇六	ろ	二〇六
と 八三五	わ一、五六六	よ二、四八六	ろ一、四四七	ほ 一五三	よ	六八四	よ	六八四
わ一、五二五	い二、九八一	ち一、九一六	ぬ 七八四	ぬ一、二七四	い	一、七二五	い	一、七二五
を 三	ち 一七八	ろ二、三八六	る 八五〇	り一、二九五	い	二、八九一	い	二、八九一
る一、二九九	わ 六五四	へ 七三四	よ二、一〇七	ぬ 二二五	よ	一、八二二	よ	一、八二二

る 七五八 と一、九七九 よ一、一四〇 ち 九八四 る二、五三四 ぬ一、四八四
 る 七二一 か 四四一 と一、五六一 ぬ 五一一 ち 五〇〇 わ 四七二

右當選者ハ本月末日迄ニ倉敷市役所又ハ倉敷商工会議所へ御申出ラレタシ
 但シ本月末日迄ニ申出ナキトキハ無効

昭和九年五月十七日

右立會人 國産振興家庭博覽會事務局
 倉敷警察署 島本敏之
 倉敷市主事 藤岡只平
 同 大野純雄
 同 書記 井上壽男

第三節 出品物の寄贈

出品物引渡に先立ち、三石礦山株式会社よりは左の通り出品物寄贈の申出があつた。
 發第三三號

昭和九年五月十六日

三石礦山株式会社

倉敷市學務課 御中

拜啓時下愈々御清榮之段奉大賀候
 陳者豫而貴地開催中ノ博覽會へ出品致居候當礦山產出ノ礦石(箱入り、八種及粘土(瓶入)四種類也)ヲ市内學校へ標本ニ
 寄贈致度幸ヒ研究資料ニデモ相成候ハ、本懐之至リニ可存候間御手数ヲ右學校御選定之上明十七、八兩日申ニ原品
 御引取ラセ被下度得貴意候
 先ハ右不取敢御依頼迄如斯御座候

敬具

依つて之を倉敷高等小學校に寄贈の手續を執つた。
南洋廳に於ては南洋館特別出品の際同廳發行の南洋群島要覽若干部を寄贈せられたので、本會は更に之を市内所在の各學校に頒つた。又林南洋廳長官は南洋館撤去の際同氏の母校たる本市大高等常小學校へ特に同館出陳の南洋群島交通大地圖一枚、剝製蜥蜴二頭、南洋風景パノラマのバック一枚を寄贈せられた。

第四節 出品物引渡

出品物の内賣約品は閉會の翌日より會場に於て引渡を爲し、殘品は事務局に保管、五月二十六日全部の引渡を了した。其他の出品物は五月十九日迄に夫々引渡を了へ、各出品者に於て直ちに場外に搬出、福山、尾道、奈良、盛岡各地の出品物は出品者の依頼に依り本會に於て荷造返送の勞を執つた。

第五節 會場撤去

會場建築物は請負人乃村組の代理者の手に依り六月十六日までに全部取除き、跡地は原形に復舊、完全に清掃した上、各所有主へ返還した。
會場外道路上にある大アーチ、祝塔、廣告塔、雪洞等は六月一日迄に各建設者の手で、それ／＼撤去清掃した。

第六節 不用品處分

本會備品並に諸設備材料空箱及福引景品殘品等は其の不用品に歸するにしたがひ隨時賣却し、代金は本會收入の内に加へた。

第七節 貸借整理

出品物搬出後直ちに出品物賣上代金の精算に着手し、各賣場掛員分擔、五月末日迄に大體結了、次いで未納料金の整理

感謝狀

品目 出品者 氏 名殿

右出品ハ本會ニ一段ノ光彩ヲ添

ヘタリ茲ニ深甚ナル感謝ノ意ヲ

表ス

昭和九年五月十七日

國産振興家庭博覽會長
倉敷市長 平松俊太郎

を行ひ、六月十日より賣上代金の交付を開始し、七月十五日賣上代金は全部の仕拂を完了し、未納料金も大體整理を終り、同十七日事務局の閉鎖となつた。
天幕、机、腰掛其他の借用品は閉會後二日間にそれ／＼返却を終つた。
従業員に對する貸銀支拂は閉會後直ちに着手し、五月廿七日までに結了した。
需用品代金支拂は六月末日までに其の全部を終つた。

第八節 感謝狀並記念品贈呈

本會無事終了を告ぐるや關係各方面約一千名に挨拶狀を發し、出品者及功勞者に對しては、それ／＼感謝狀を贈呈しなほ記念品として町總代へ湯吞一組、役職員其他へ貰入セツトを贈呈した。

感謝狀

中國合同電氣株式會社倉敷營業所股

本博覽會ノ趣旨ヲ翼賛シ巨費ヲ投シテ會場内ニ電氣館ヲ特設シ最新發明進歩ノ精粹ヲ蒐メ各種ノ應用裝置ヲ施シテ普ク觀覽者ノ實驗ニ供シ説明ノ勞ヲ執リ趣味實益兼ネ備ハリ本會ニ一大光彩ヲ添ヘタリ仍テ茲ニ深甚ナル感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年五月十七日

國產振興家庭博覽會長
倉敷市長 平松俊太郎

感謝狀

實演場
私設會館
動物園
海女館

各設置者 氏 名殿

本博覽會ノ趣旨ヲ翼賛シ會場内ニ

ヲ設置シ(經營其ノ宜シキヲ得)本會ニ一段ノ光彩ヲ添ヘタリ仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年五月十七日

國產振興家庭博覽會長
倉敷市長 平松俊太郎

感謝狀

無料休憩所
寫真店
寫真場

各設置者 氏 名殿

本博覽會ノ趣旨ヲ翼賛シ會場内ニ

ヲ設置シ本會ニ寄與スル所尠カラス仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年五月十七日

國產振興家庭博覽會長
倉敷市長 平松俊太郎

感謝狀

乃村泰資殿
南光清三殿

本博覽會ノ趣旨ヲ翼賛シ建物及設備裝飾ノ全般ヲ請負ヒ誠實勤勉終始犠牲的精神ヲ以テ事ニ當リ各館ノ企畫皆其ノ宜シキニ適ヒ工營其ノ期ヲ愆ラス成績極メテ良好ナリ仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年五月十七日

倉敷市連倉敷商工會議所主催
國產振興家庭博覽會々長
倉敷市長 平松俊太郎

肅啓愈御清稔奉恭賀候

然者過般國産振興家庭博覽會開設致シ候際ハ特別ナル御協賛御援助ニ預リ御蔭ヲ以テ先々盛況裡ニ終始シ目下殘務整理中ニ有之候處可ナリノ成績ヲ以テ終了ノ確信ヲ得ラレ申候是偏ニ貴下御後援ノ賜ニ外ナラサル儀ト當事者一同深ク感銘罷在候次第ニ有之實ハ拜趨御挨拶可申上之處甚々略儀以書中右經過御報告旁御厚禮申述度如斯御座候

敬具

昭和九年七月 日

國産振興家庭博覽會長

倉敷市長 平松俊太郎

協賛寄附者 氏 名殿

拜啓益御清榮奉賀候

然者國産振興家庭博覽會開設ニ就テハ一方ナラサル御協賛御援助ニ預リ御蔭ヲ以テ盛況裡ニ終始致シ目下殘務整理中之處愈成功ノ確信ヲ得ルニ至リ申候是全ク貴下御盡力ノ賜トシテ深ク感銘罷在候次第ニ有之甚々輕少ナガラ記念ノ爲メ湯吞一組ヲ贈呈シテ聊カ感謝ノ微意ヲ表シ度如斯御座候 敬具

昭和九年七月 日

國産振興家庭博覽會長

倉敷市長 平松俊太郎

町總代 氏 名殿

第九節 文書整理

關係各帳簿を整理するの外、往復文書其他を出品、工營、宣傳、協賛其他十餘の部類に整理編綴して後日の閲覧に便ならしめた。

第十節 會誌編纂

國産振興家庭博覽會誌編纂に關しては開期中より各掛に於て資料の整理蒐集に力め、寫眞撮影は市吏員片山薫、編纂は市囑託菅正十郎之に當り、本會囑託事務員貝原通太、同武村勝美専ら整理及成稿に任じ其の完成を見るに至つた。

第十五章 經費收支

第一節 豫算

本博覽會は準備期間極めて短小であつた爲め、事業着手の必要上取敢へず最小限度の豫算を立て、經費を一八、八〇〇圓としたが、事業の進捗に伴ひ、追加更正して二六、一一八圓八九錢とした。

支出は會場費大部を占め、事務費宣傳費之に次ぎ、極力冗費を避けることとした。収入の大部は入場料、小間料及使用料に待ち、不足は主に主催者たる倉敷市及倉敷商工會議所の負擔金と寄附金とを以て補ふものである。

昭和九年六月十六日追加更正豫算は左の如くである。

國産振興家庭博覽會收支追加更正豫算

收 入

一金壹萬八千八百圓

收入既定豫算額

一金貳萬六千百拾八圓八拾九錢
 支 出
 一金壹萬八千八百圓
 一金貳萬六千百拾八圓八拾九錢
 差引殘金ナシ
 追加更正豫算額
 支出既定豫算額
 追加更正豫算額

國產振興家庭博覽會收支追加更正豫算

款	項	追加更正豫算額	既定豫算額	增減	豫算說明
一、入場料	一入場料	九、六四、七	八、八〇、〇	八、六四、七	本館大人四萬三千七百二十五人七千八百六拾壹圓貳錢 小館大人一萬七千九百七十九人一千九百拾壹圓五拾七錢 計大人六萬七千九百零四圓八錢 怪奇館大人一千八百九拾壹圓參拾七錢 小館大人一千五百六拾九圓參拾七錢 計大人三萬三千五百七拾四圓九錢四分
二、小間料及 使用料	一小間料	八、七二、七〇	三、一〇〇、〇〇	五、六二、七〇	陳列小間二百五十八間貳拾五圓五拾錢 (內未收)九十二圓 特賣館二十六間五百參拾六圓 館外土地三十八間九拾四圓五拾錢 南洋館三十七間九拾五圓七拾錢 建物使用料七百四拾五圓七拾錢
	一使用料	二、三六、三〇	一、三三、〇〇	九、〇三、三〇	陳列小間二百五十八間貳拾五圓五拾錢 (內未收)九十二圓 特賣館二十六間五百參拾六圓 館外土地三十八間九拾四圓五拾錢 南洋館三十七間九拾五圓七拾錢 建物使用料七百四拾五圓七拾錢
三、不用 拂代品	一不用 拂代品	一、六、〇	三〇〇、〇〇	一〇三、五	不用品賣拂代
收入合計		三六、二八、六	一八、八〇、〇	七、三八、六	

支出之部

款	項	追加更正豫算額	既定豫算額	增減	豫算說明
一、會場費	一會場費	一五、〇七、五五	一五、〇七、五五	六、一七、五	本館特設臨時門事務所迎賓館其他建築工費七百七十三圓七十七錢 七圓南洋館電氣館建築工費七百四十五圓七十錢 陳列及裝飾設備費 會場敷地料 電氣料
	二、建築費	八、一三、七〇	四、七〇、〇〇	三、五七、〇	
	三、敷地料	三、四七、元	三〇〇、〇〇	二、六七、元	
	四、電氣料	一、三八、五	六〇、〇〇	六、八、五	
收入合計		三六、二八、六	一八、八〇、〇	七、三八、六	
四、補助金	一補助金	三、五〇、〇〇	三〇〇、〇〇	三、五〇、〇〇	縣補助金
五、負擔金	一負擔金	一、五〇、〇〇	一、五〇、〇〇	一、五〇、〇〇	(倉敷市)一、〇〇〇圓 (倉敷商工會議所)五〇〇圓
六、寄附金	一寄附金	四、九四、五〇	四、六〇、〇〇	三、四四、五〇	協贊寄附金
七、雜收入	一雜收入	六〇、〇〇	三〇〇、〇〇	六、六〇、〇〇	賣上手敷料其他

國產振興家庭博覽會收支殘餘金處分ノ件
 本會收支決算ノ上殘餘金ヲ生ジタル場合ハ本市商工業振興ニ關スル施設等ノ費用ニ適宜支出スルコトヲ倉敷市長ニ
 一任スルモノトス
 昭和九年六月十六日

支 出 合 計	五、補助費	一補助費	六、九、五〇	六、九、五〇	六、〇〇、〇〇	元、五〇	各種補助
	六、會編費	一會編費	八、五、〇〇	八、五、〇〇	八、五、〇〇	八、五、〇〇	
	七、記念品費	一記念品費	四、五、〇〇	四、五、〇〇	四、五、〇〇	四、五、〇〇	職員記念品費
	八、雜出	一雜出	五、五、〇〇	五、五、〇〇	五、五、〇〇	五、五、〇〇	補償料其他
	〇豫備費	〇豫備費	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	
支 出 合 計			三六、二八、八	三六、二八、八	一八、八〇、〇	七三、三八、八	

本豫算支出ノ部各款中各項ノ金額ハ實出ニ當リ彼此流用
 支出スルコトヲ得ルモノトス

倉敷市長 平松俊太郎
 國產振興家庭博覽會會長

二、儀式費	一儀式費	六、九、〇〇	六、九、〇〇	五、〇〇、〇〇	一、九、〇〇	一、九、〇〇	開會式費五五六圓、閉會式費六三圓
	六雜費	一、四八、五	一、四八、五	一、六〇、〇〇	一、一〇、〇〇	四五、〇〇	諸雜費
三、事務費	一事務費	六、〇、六三	六、〇、六三	六、〇、六三	六、〇、六三	六、〇、六三	
	事務員給及手當	八七、七	八七、七	四〇、〇〇	四七、七〇	四七、七〇	
四、宣傳費	一宣傳費	一、六三、三	一、六三、三	一、五〇、〇〇	一、一三、三〇	一、一三、三〇	ボスター其他宣傳費
	士階雜費	一、七〇、七	一、七〇、七	六、〇〇	一、六四、七〇	一、六四、七〇	諸雜費
	士警備費	一六、〇〇	一六、〇〇	二、〇〇	一四、〇〇	一四、〇〇	警備手當
	士自動車費	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	自動車借上料
	士助費	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	宿直、夜勤助費
	士電話費	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	私設電話架設費
	士運搬費	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	通信運搬費
	士用品費	一、五、七	一、五、七	一、五、〇〇	〇、七〇	〇、七〇	備品及消耗品費
	士印刷費	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	印刷諸費
	士旅費	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	旅費
	士會議費	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	會議諸費
	士守衛人給	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	守衛人給
	士看守人給	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	看守人給
	士備人料	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	備人料
	士事務員給	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	事務員給及手當

第二節 補助金

本會に對し岡山縣より補助金貳百五拾圓交付の指令があつた。

岡山縣指令商第三四八號

國產振興家庭博覽會長

倉敷市長 平松俊太郎

昭和九年二月九日附博第三七九號申請國產振興家庭博覽會縣費補助ノ件聽許シ金貳百五拾圓交付ス但シ左ノ通心得ヘシ

昭和九年七月三日

岡山縣知事 篠原英太郎

一、補助金ハ倉敷市並同商工會議所主催國產振興家庭博覽會ノ經費ニ充當使用スヘシ

二、決算額カ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキハ既ニ交付シタル補助金ノ一部又ハ全部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

三、收支計算並事業成績ハ本博覽會終了後詳細報告スヘシ

四、前項ノ外ハ勸業補助規程ヲ遵守スヘシ

第三節 決算

國產振興家庭博覽會收支決算概要

収入之部	支出之部
入場料	會場費
九、六六四・七七	一五、〇四七・一九
小間料	儀式費
六、五六五・〇〇	六三二・四五

使用料	二、三〇一・二〇	事務費	六、〇九四・五二
不用品買拂代	一六二・四〇	宣傳費	一、九六四・四二
補助金	二五〇・〇〇	補助費	六五九・五〇
資贈金	一、五〇〇・〇〇	會誌編纂費	一〇〇・三〇
寄附金	五〇〇・八・五〇	記念品費	五四九・四一
雜收入	八九二・七〇	雜出	一〇三・三〇
收入合計	二六、三三四・五七	支出合計	二五、一五〇・〇九
差引殘金	一、一九四・四八		
内	會誌編纂費ノ内編輯印刷及押本ノ支拂未済額概算		
四六〇・〇〇	殘餘ノ見込		
七三四・四八			

(註) 本決算ニ依ル殘餘金處分ニ付キテハ昭和九年六月十六日評議員會ノ決議ニ基キ本市商工業振興ニ關スル施設等ノ費用ニ適宜支出スルコトヲ倉敷市長ニ任スルモノトス

第十六章 成績

本會の成績を通覽するに、出品總數三四、〇〇七、出品人員六二二、内地に於ては東北岩手より西南福岡に亘る三至十五縣、遠くは南洋群島に及ぶ各種生産の粹を蒐め、開期二十五日間を通じて入場者總數七六、二九七人に上り、相當の効果を擧げ得たものと信ずる。而して所要の經費は二六、三四四圓五七錢にして幸に收支の均衡を保つを得た。是等は實に關係各方面の熱烈なる協賛援助の賜で感謝の外はない。

翻つて本會出品物の分野を見るに、特設館は姑く措き、第一、第二兩本館の出品は市内、縣内、縣外の三者恰も鼎立の勢を呈し、當業者の刺戟發奮を喚起すると共に、自他の紹介に役立つたものの如く、本會の開設を機縁とせる新取引の行はれてゐる事例を聞くことが屢あるのは喜ばしいことである。

又倉敷驛の調査に依れば、本會開期中同驛の乗降客は、前年同期に比して、山陽本線及伯備線の乗降客は四割一分を、

同降車客は四割九分を、茶屋町間省営自動車乗車客は五割四分を、いづれも増加してゐる。之に依つて見ても本會が直接間接各方面に與へた影響は可なり大きいものがあることが窺はれるのである。

國産振興家庭博覽會開期中に於ける倉敷驛乗降人員一覽表 (倉敷驛調査に據る)

日 別	種 別			備 考	日 別	種 別			備 考
	列車乗車 (團體ヲ含ム)	列車降車 (團體ヲ含ム)	自動車乗車 (省營ニ限ル)			列車乗車 (團體ヲ含ム)	列車降車 (團體ヲ含ム)	自動車乗車 (省營ニ限ル)	
四・二二	三,九八	三,八三	五五	日曜日	五・七	一,六七	一,五七	三五	
四・二三	一九四	二,三六	四三	晴後雨	五・八	一,九一	一,四七	四九	
四・二四	一,三四	一,三九	三三	雨後晴	五・九	一,八六	一,八五	三二	曇
四・二五	二,八九	三,〇九	三三		五・一〇	一,三三	一,七六	四三	雨
四・二六	一,八七	一,六三	二二		五・一一	一,三三	一,二九	四三	雨
四・二七	二,三〇	一,六〇	四六		五・一二	一,四三	一,五七	六一	雨
四・二八	一,五八	一,五〇	三四		五・一三	二,四七	二,七六	六一	雨
四・二九	一,三九	一,四三	三三	天長節日曜日	五・一四	二,〇七	一,八三	六〇	日曜日
四・三〇	一,九七	一,七七	三三		五・一五	二,二六	二,四三	五三	後晴
五・一	二,一八	二,五三	三五		計	五,一三七	五,〇〇〇	二,七六	
五・二	二,五八	三,四三	四二		五・一六	二,三三	二,一五	六〇	
五・三	一,四八	一,三三	六四		前年同期	三,八八三	三,九三八	七六	
五・四	二,九四	二,七二	五〇		差引増	一五,三四五	一六,六六六	四,一五	
五・五	三,四九	三,三七	三八		増加歩合	〇・一〇	〇・二九	〇・三〇	
五・六	三,三三	三,〇七	九三	日曜日					

同 同

(餘興委員)

同
倉敷商工會議所議員

(死亡)

白 林 杉 北 森 小 河 中 平 光 小 鴨 原 難 小 小 梶 惠 西 岩
神 原 田 田 川 原 桐 野 畑 河 井 波 松 河 谷 藤 藤 知
桂 善 久 源 幸 好 太 岩 廣 銀 鶴 卓 壯 太 太 道
種 二 三 右 源 幸 好 太 岩 廣 銀 鶴 卓 壯 太 太 定
二 郎 郎 門 二 平 平 郎 郎 吉 次 三 健 義 一 平 郎 郎 吉 郎

同
評 議 員
常 務 理 事
倉 敷 市 助 役
倉 敷 商 工 會 議 所 理 事 市 會 議 員
倉 敷 市 會 議 員

(宣傳委員長)
倉敷市產業委員會倉敷衛生組合顧問
(建築委員)
同 倉敷商工會議所副會頭
(建築委員)
倉敷商工會議所議員商業部員
(宣傳委員)
同
(宣傳委員長)
同
(建築委員長)
同 市會議員
(建築、餘興委員)同
倉敷市助役
倉敷商工會議所理事市會議員
倉敷市會議員

秋 小 內 小 岡 田 小 三 橫 和 堀 船 黑 江 佐 小 三 渡 森 脇
岡 野 田 川 田 邊 谷 宅 溝 田 井 曳 崎 口 木 野 宅 邊 田 本
俊 眞 金 清 勝 孫 辰 敏 吉 惠 彦 貞 勝 民 繁 增 熊 源 尚 正
三 衛 一 吉 一 藏 郎 助 俊 吉 郎 男 雄 郎 郎 七 郎 二 夫

理	倉敷商工會議所議員	加納彌一
同	同	藤原幸吉
同	同	大倉一義
同	同	吉田壽次
同	同	植村俊二
同	同	井上直太郎
同	同	難波彌一
同	同	今在孝市郎
同	同	岩田正治
同	同	堀田量平
同	同	大野純雄
同	同	栗山巳紀雄
同	同	藤岡只平
事務長	(庶務委員長)	倉敷市主事 產業課長
事務員	梶谷義平	貝原宇平
同	桑田純一	井上壽男
同	三宅鉄男	外倉敷市吏員並倉敷商工會議所職員中
囑託事務員	貝原通太	武村勝美
囑託	草野昇	久保田毅
	大野齋	山下勝
		楠戶豐吉郎
		白神瀧藏
		岩崎平市
		林源次郎
		竹中武
		中尾大藏

二、本會 日誌 (重要事項摘録)

(昭和八年)

- 十一月一日 市役所ニ於テ博覽會開設ノ件ニ關シ課長會議ヲ開ク
 - 同 十一日 博覽會施設概要協議
 - 同 十五日 會則及諸規則審議
 - 同 十八日 豫算案作成
 - 同 二十日 會場建物請負交渉開始
 - 同 二十一日 會則及豫算査定
 - 同 二十二日 市産業委員會ヲ開キ博覽會開設ノ件ヲ諮ル
 - 同 二十七日 倉敷商工會議所役員會開催博覽會共催決議、會場敷地借入交渉開始
 - 十二月四日 市會協議會開催博覽會開設ノ件可決確定市長ヲ會長ニ推ス
 - 同 八日 商工會議所議員總會開催博覽會共催ノ件可決確定
 - 同 十一日 輕鐵バス關係業者並在倉新開關係者ヲ商工會議所ニ招キ博覽會開設ノ件ニ關シ懇談會開催
 - 同 十二日 上京中ノ嚴津政右衛門氏ニ囑シ高島屋ニ開催中ノ義士館視察乃村工藝社ト會場建物請負交渉ヲ行フ
 - 同 十五日 會長ヨリ本會役員並事務員ヲ囑託任命シ本會事務局ヲ市役所内ニ置ク
 - 同 十八日 商工大臣並縣知事宛補助申請
 - 同 十九日 全國各都市其他へ出品勸誘狀發送
- 本會協賛寄附金依頼狀發送

十二月二十一日 武村勝美氏ヲ事務員ニ囑託ス
 同 二十二日 縣下各學校長宛參觀方依頼
 同 二十三日 本縣工業試驗場技手山下勝氏ニ依囑中ノポスター圖案成ル
 同 二十四日 南洋廳長官林壽夫氏宛南洋館特設方依頼
 同 二十五日 本會國庫補助詮議難相成旨岡山縣内務部長ヨリ移命通牒アリ
 第一回評議員會開催

一、ポスター選定ノ件

二、觀覽者誘致ニ關スル件

三、寄附金募集方法ニ關スル件

四、出品勸誘ニ關スル件

五、入場料割引ニ關スル件

六、其他

同 二十六日 會場建築ノ件ニ付八日市清太郎氏來會

同 二十八日 井笠鐵道外九社宛團體觀覽料割引方及觀覽者誘致方依頼

同 二十九日 各都市其他へ出品勸誘狀追加發送

(昭和九年)

一月五日 本會評議員出品勸誘ノ爲各地派遣ニ付出張豫定先へ依頼狀發送

同 六日 ポスター發送掲揚方依頼

同 八日 第二回評議員會開催

一、建築委員設置ノ件

二、宣傳委員設置ノ件

三、建物及呼物契約ノ件

四、旅費其他諸給與ニ關スル件

五、其他

建築委員並宣傳委員ニハ會長ヨリ左ノ諸氏ヲ指名セリ

建築委員	森 安 熊 吉	安 原 榮 一	森 田 尙 二
	渡 邊 源 太 郎	佐 々 木 繁 太 郎	江 口 民 雄

宣傳委員	豐 島 武 治	田 中 伊 之 助	安 井 甚 太 郎
	脇 本 正 夫	三 宅 熊 七	小 野 增 一 郎

一月九日 出品勸誘ノ爲佐々木、田中兩評議員及貝原(宇)事務員ノ三名四國方面ニ出張
 同日 出品勸誘ノ爲小野、江口、森田ノ各評議員及藤岡事務長ノ四名ハ關西方面ニ、安井、渡邊兩評議員及梶谷事務員ノ三名ハ山陰方面ニ出張

同 十一日 四國方面出張員歸會

同 十二日 關西並山陰方面出張員歸會

同 十五日 出品勸誘ノ爲森安、三宅兩評議員及桑田事務員ノ三名廣島方面ニ出張

同 十六日 都窪郡内各町村長並近隣各郡町村長ニ協賛寄附依頼狀發送

市内出品勸誘ニ着手

同 十七日 廣島方面出張員歸會

同 十八日 桑田事務員ハ廣島縣へ、梶谷、貝原(宇)兩事務員ハ津山、新見、高梁方面ニ出張

同 二十一日 藤岡事務長、梶谷事務員淺口、小田兩郡へ出張

一月二十四日 第三回評議員會開催

- 一、縣外出品勸誘經過報告ノ件
- 二、寄附金募集ニ關スル件
- 三、其他

同 二十六日 市内村田昇ト倉敷驛前大ア一チ建設工事請負契約締結

各放送局及電氣會社宛出品方依頼狀發送

同 二十八日 藤岡事務長、楠戶事務員ハ小田、後月兩郡へ、梶谷、貝原(字)兩事務員ハ兒島郡へ出張

同 二十九日 南洋廳ヨリ出品應諾ノ通知アリ

第一次町總代正當番會議全市協賛方ニ關シ協議

同 三十日 貝原通太氏ヲ事務員ニ囑託

同 三十一日 第一回建築委員會開催

一、建物契約ニ關スル件

二、地鎮祭ニ關スル件

三、中國合同電氣株式會社倉敷營業所ヨリ特設館(電氣館)出品申出ノ件

四、本町ニ第二會場設置希望ノ件

五、岡山市ニ開設ノ全國工藝博覽會ト共通券發行方ノ件

六、其他

乃村工藝社岡山出張所稻田常藏氏來倉

梶谷、貝原(字)兩事務員伊部町及西大寺町ニ出張

二月一日 藤岡事務長、貝原(字)事務員ハ中洲村へ、貝原(通)事務員ハ吉備郡へ出張

同 二日 鐵道省運輸局長宛旅客並出品貨物運賃割引申請

船曳常務理事、藤岡事務長ハ煙草製造實演方ニ關シ岡山地方專賣局へ、梶谷、貝原(字)兩事務員ハ

茶屋町、早島町、庭瀬町方面へ出張

南洋廳屬東京出張所詰加藤勝吉氏出品打合ノ爲來倉

同 四日 梶谷、貝原(字)兩事務員兒島、淺口兩郡へ出張

同 五日 縣知事宛驛前大ア一チ建設敷地府縣道一時使用許可出願

同 七日 第二回建築委員會開催建築請負契約案審議

鐵道省大阪、岡山各運輸事務所及井笠鐵道、下津井鐵道各運輸課宛各管内主要驛ニ本會立看板建設方依頼

同 九日 商工大臣並縣知事宛補助申請ノ件追申

第三回建築委員會開催同委員立會ノ下ニ東京乃村工藝社ト本會建物工事及陳列戸棚、特設館陳列及設備裝飾請負契約締結、別ニお化館(怪奇館)經營ニ關スル覺書交換

岡山縣商工課長、岡山市産業課長及岡山商工會議所理事ニ對シ出品勸誘者派遣方申請

同 十日 會場敷地地鎮祭執行

同 十二日 貝原(字)、貝原(通)兩事務員岡山市へ出張

同 十三日 朝鮮總督府宛出品參加方依頼狀發送

同 十四日 黑崎常務理事本會補助ノ件ニ付出張

同 十五日 藤岡事務長、梶谷、貝原(字)兩事務員岡山市へ出張

同 十六日 貝原(字)事務員淺口郡へ出張

同 十七日 會場豫定地内市道占用許可願ヲ倉敷市長ニ提出

二月十九日 平松會長、船曳常務理事、藤岡事務長本會開催挨拶其他ノ用務ヲ以テ岡山市へ出張
 梶谷、貝原(宇)兩事務員ハ八濱町、下津井町へ、貝原(通)事務員ハ金光町、笠岡町地方へ出張
 東京、大阪著名商店ニ對シ出品參加方依頼狀發送
 同 二十一日 岡山縣高粱高等技藝女學校校長並岡山縣順正高等女學校校長宛出品方依頼狀發送
 同 二十三日 第四回評議員會開催
 一、第二ポスター選定ノ件
 二、寄附金募集ニ關スル件
 三、諸規定制定ノ件
 四、倉敷驛上リホーム裝飾宣傳ノ件
 五、其他
 同 二十七日 市内旅館旅客收容人員及宿料其他ノ調査ニ着手
 日光歴史大博覽會ノ件ニ付飯塚市中本覺造氏宛照會
 同 二十八日 貝原(宇)事務員兒島郡福田村へ出張
 三月一日 岐阜市實業協會員宮崎富三郎氏出品打合ノ爲來會
 同 二日 會場建物建築促進交渉ノ爲貝原(宇)事務員岡山市へ出張
 同 三日 出品物ノ件ニ關シ藤岡事務長、梶谷事務員高粱町へ出張
 同 四日 倉敷驛上リホーム裝飾ノ件大阪鐵道局運輸課長宛申請
 同 五日 各出品申込者ニ對シ出品承諾書發送
 黑崎常務理事ハ金光町へ、堀理事ハ上京ノ途次京都市へ出張
 岡山縣知事ヨリ二月五日附申請府縣道一時使用許可指令

同 七日 岩田理事上京ノ途次出品勸誘ノ爲奈良、岐阜、大垣、一宮ノ各市ニ出張
 同 八日 黑崎常務理事出品勸誘ノ爲神戸市へ出張
 第一回評議員、理事聯合會開催寄附金募集ノ件ニ付協議
 同 九日 二月二日附運賃割引申請ニ對シ鐵道省運輸局長ヨリ三月七日附了承ノ回答ニ接ス
 同 十二日 縣下各學校長宛生徒觀覽方依頼狀發送
 神戸、岡山著名商店ニ對シ出品參加依頼狀發送
 市内裝飾用岐阜提灯調製方ニ關シ見積書提出方岐阜市役所へ依頼
 旅客並貨物運賃割引證及荷票ヲ出品人及關係者ニ交付
 鐵道省運輸局宛割引證及荷票見本送付
 同 十六日 驛前大アーチ建設ニ付倉敷警察署長宛道路使用許可願提出
 第四回建築委員會開催
 一、小間場所増築ノ件
 二、特賣館建坪ニ關スル件
 三、特賣館増築ノ件
 四、市内出品者各小間外部裝飾ニ關スル件
 五、建築物其他ヲ火災保險ニ附スルノ件
 六、南津館ニ關スル件
 七、海女館ニ關スル件
 八、別館施設ニ關スル件
 九、其他

- 三月十八日 第二ポスター發送揚揚方依頼
- 同 十九日 會場附近ノ道路上ニ祝塔アーチ雪洞等建設ニ付市道占用許可願ヲ倉敷市長ニ、道路使用許可願ヲ倉敷警察署長ニ提出
- 同 二十日 第一回宣傳委員會開催日光歴史大博覽會ニ關スル件協議
- 同 二十二日 中本富美雄氏ヨリ日光歴史大博覽會開催中止ノ旨電報アリ
- 同 二十四日 第二次町總代正當番會議各町裝飾ニ關スル件及各町催物ニ關スル件其他協議
- 同 二十六日 寄附金募集關係役員宛四月五日迄ニ募集完了方通牒
- 同 二十七日 義士遺品其他借入用務ニ關シ船曳常務理事赤穂町ニ出張
- 同 二十八日 倉敷警察署長ヨリ道路使用許可書受領
- 同 二十七日 町内催物並街頭裝飾用岐阜提灯所要數量申出方町總代へ通牒
- 同 二十八日 女子看守希望者ノ考查ヲ商工會議所樓上ニ行フ
- 同 二十九日 出品小間割決定通知
- 同 三十日 義士遺品其他借用出陳方ニ關シ赤穂町大石神社花岳寺赤穂中學校長(赤穂義士會長)宛挨拶狀發送
- 同 三十一日 岐阜提灯團扇工業組合員來倉街頭裝飾用提灯調製納入契約成立
- 同 四月一日 倉敷驛上リホーム裝飾ノ件ニ付藤岡事務長岡山市へ出張
- 同 四月四日 大阪鐵道局運輸課長ヨリ倉敷驛上リホーム裝飾方申請ノ件ハ承諾致シ難キ旨ノ回答アリ
- 同 四月五日 小野達一郎氏ヲ事務員ニ囑託
- 同 五月五日 女子看守採用決定通知
- 同 五日 神戸海上運送火災保險株式會社ト博覽會々場建物一式ニ對シ保險金額壹萬圓ノ契約成立

- 同 六日 出品荷物搬入方通牒
- 同 七日 第五回評議員會開催
- 同 十一日 出品規則第二十七條中改正ノ件
 - 一、出品規則第二十七條中改正ノ件
 - 二、街頭裝飾ニ關スル件
 - 三、寄附金募集ニ關スル件
 - 四、休憩所利用ノ件
 - 五、迎賓館建設ノ件
 - 六、噴水塔施設ノ件
 - 七、開會式舉行ニ關スル件
 - 八、別館ニ關スル件
 - 九、餘興ニ關スル件
 - 一〇、賣店廣告塔其他撤廢保證金ニ關スル件
 - 二、入場料割引ニ關スル件
 - 三、其他
- 同 十一日 黑崎常務理事出品勸誘ノ爲井原町へ出張
 - 第二回宣傳委員會開催
 - 一、飛行機宣傳ノ件
 - 二、新聞廣告ノ件
 - 三、宣傳ビラ配布ノ件
 - 四、空中廣告短期掲揚ノ件

- 五、大福引ノ件
- 六、煙火ノ件
- 七、廣告板ヲ酒津及岡山城ニ設置ノ件
- 八、廣告燐寸製作ノ件
- 九、自動車尻廣告ノ件
- 一〇、宣傳繪葉書ノ件
- 二、市内總動員宣傳各戸ノ軒頭ニ裝飾用三角ポスター吊下ノ件
- 三、其他
- 四月十二日 餘興ニ關シ關係者打合會ヲ開ク
- 藤岡事務長噴水塔ノ件ニ關シ岡山市へ出張
- 同 十七日 市内岸本正一、吉田彰兩氏ト煙火打上契約ヲナス
- 同 十八日 神戸海上運送火災保險株式會社ト博覽會々場内ニ收容ノ動産ニ對シ保險金額參萬圓ノ契約成立
- 同 十九日 本會事務局ヲ會場内ニ移轉ス
- 出品物陳列開始
- 大野理事義士遺品其他借入ノ爲赤穂町へ出張
- 竹中武氏ヲ事務員ニ囑託
- 消防組員詰所設置
- 事務員二名ノ宿直及消防組員四名ノ夜警ヲ開始ス
- 守衛志望者ノ考査ヲ市役所ニ行フ
- 同 二十日
- 同 二十一日 事務員徹夜開會諸準備ヲ完了ス

- 同 二十二日 午前十時會場内演藝館ニ於テ開會式舉行、式後園遊會、一般開場
- 會期中事務局内ニ警察官詰所及救護班ヲ設ク
- 會期中入場者三千人ニ達スル毎ニ大福引豫選抽籤ヲ行フ
- 飛行機宣傳ヲ行フ
- 草野昇、久保田毅兩氏ヲ事務員ニ囑託
- 同 二十五日 海女館開場
- 横山萬壽次氏ヲ事務員ニ囑託
- 同 二十六日 中尾大藏氏ヲ事務員ニ囑託
- 同 二十八日 會場敷地内ニ開催ノ第一回全國畜犬共進會第一日
- 自動車宣傳ヲ行フ
- 同 二十九日 第一回全國畜犬共進會第二日
- 同 三十日 出口日出丸氏一行來場
- 動物園開場
- 五月一日 岡山市ニ開催ノ縣下教員大會へ宣傳ノ爲貝原(宇)、小野兩事務員ヲ派遣ス
- 同 二日 岡山地方裁判所長一行及山口縣商工課長一行來場
- 市内萬壽小學校ニ開催ノ縣下教員大會へ事務員派遣宣傳誘致ニカム
- マネキン嬢特賣館ニ來ル
- 同 三日 新見町ニ開催ノ縣下教員大會へ宣傳ノ爲貝原(宇)事務員ヲ派遣ス
- 林(九)事務員岡山市へ出張
- 第四回建築委員會開催建築請負保證金還付ニ關スル件協議

- 五月四日 倉敷商工會議所主催本會協賛廣告行列第一日
- 同 五日 川西町本會協賛倉敷踊第一夜
- 同 五日 大日本武徳會倉敷支所主催第一回演武大會ヲ倉敷武徳殿ニ開ク
- 元岡山東警察署長野田徳三郎氏、現岡山西警察署長梶並謙吾氏等一行來場
- 高梁町ニ開催ノ縣下教員大會ヘ宣傳ノ爲小野事務員ヲ派遣ス
- 倉敷商工組合主催本會協賛廣告行列第二日
- 川西町本會協賛倉敷踊第二夜
- 同 六日 岡山民報(現倉敷日報)主催本會協賛優良商店訪問競走
- 倉敷地方煙草小賣人組合春季總會開催來會者全員來場
- 同 七日 縣參事會員一行來場
- 同 八日 第一回福引デー
- 同 九日 大阪朝日新聞社オートヂヤイロ機來訪會場上空ヲ旋回シ會長宛メツセーヂ入通信筒ヲ投下ス
- 第六回評議員會開催
- 一、會期延長ニ關スル件
- 二、割引デー舉行ニ關スル件
- 三、其 他
- 同 十日 本會最終日一日出品物割引即賣承諾方通牒
- 同 十二日 商工省岩崎事務官、山口屬兩氏本會ヲ視察セラル
- 同 十三日 市内植村俊二、淺野實兩氏主催縣下軟式野球大會ヲ倉紡グラウンドニ舉行本會ヨリ出場十六チームニ參加賞トシテ優待券十枚宛ヲ交付ス

- 同 十四日 第二回福引デー
- 同 十五日 阿智神社春季例祭第一日
- 特別夜間開場第一日
- 林事務員岡山市ヘ出張
- 同 十六日 阿智神社春季例祭第二日
- 特別夜間開場第二日
- 出品物割引即賣デー
- 午前十時閉會式ヲ倉敷武徳殿ニ舉行
- 午後十一時閉場茲ニ本會無事終了ヲ告グ
- 久保田事務員ノ囑託ヲ解ク
- 同 十七日 大景品附福引本抽籤ヲ行フ
- 出品物引渡開始、女子看守及守衛全員補助勤務ニ服ス
- 女子看守及守衛解雇
- 同 十八日 義士館特別出品物返却ノ爲大野理事、武村事務員ハ赤穂町ヘ、林(九)事務員ハ岡山市ヘ出張
- 同 十九日 出品物引渡完了
- 夕刻事務局ヲ市役所内ニ移シ從來ノ宿直並夜警ヲ廢ス
- 消防組員詰所閉鎖
- 小野、竹中兩事務員ノ囑託ヲ解ク
- 同 二十一日 清算事務着手
- 同 二十五日 横山事務員ノ囑託ヲ解ク

- 五月二十六日 賣約品引渡完了
- 同 二十九日 中尾事務員ノ囑託ヲ解ク
- 同 三十一日 賣上清算結了
- 六月十日 賣上代金支拂着手
- 同 十五日 會場建築物全部撤去
- 同 十六日 第七回評議員會開催
 - 一、追加更正豫算議定ノ件
 - 二、收支殘餘金處分ノ件
 - 三、其他
- 同 十八日 本會收支決算見込額ヲ岡山縣知事ニ報告
- 同 二十三日 會場敷地貸與者ニ對スル返付手續ヲ了ス
出品人並功勞者ニ感謝狀贈呈
- 同 三十日 町總代ニ記念品贈呈
- 七月一日 博覽會誌編纂囑託菅正十郎氏ヲ補佐シテ貝原、武村兩事務員專ラ資料ノ整理及成稿ニ從事ス
- 同 三日 岡山縣ヨリ本會補助金交付ノ指令アリ
- 同 十六日 賣上代金支拂完了
- 同 十七日 小間料其他未納整理大體終了
貝原、武村兩事務員ノ囑託ヲ解ク
本會事務局閉鎖
- 九月四日 午後四時新溪園ニ於テ本會ヲ語ル座談會開催關係者六十七名ヲ請待シ會長座長トナリ本博覽會ノ計

畫設備世評其他一般ニ關スル事項ニ就キ各自意見ノ開陳アリ、將來ノ參考ニ供スベキ幾多ノ有益ナル「ヒント」ヲ得同六時閉會

倉敷市並倉敷商工會議所主催
國產振興家庭博覽會誌

市 教 會
所 議 會 工 商 教 會
催 共
誌 會 覽 博 庭 家 興 振 產 國

發 行 處 者 國 產 振 興 家 庭 博 覽 會
代 表 者 平 松 俊 太 郎
倉 敷 市 倉 敷 三 〇
印 刷 者 瀨 良 常 吉
關 山 市 船 頭 町 八 二
印 刷 所 中 國 民 報 社 印 刷 部
關 山 市 東 山 下 四 〇

昭和九年十一月三十日印刷
昭和九年十二月五日發行
(非賣品)

終